

レプリケーション・クライアント編 [ver.5.1]

## 本文書のご利用にあたって

本文書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き禁止されています。本文書内の社名、製品名は各社の商標又は登録商標です。本文書の内容は2013年10月31日現在のものです。

※本文書で使用している情報及び画像は本文書執筆時点のものです。そのため、最新版の製品および製品 Web サイトと文言やデザイン等が異なる場合がございます。

目次
----

はじ	うめに	6
1	インストール前の確認事項	7
	システム要件	
	インスタンスと稼働モード	9
2	インストール	11
	VVAULTをダウンロードする	12
	Microsoft.NET Framework 3.5 SP1をインストールする	13
	▼ Windows Server 2008 R2ヘインストールする場合	
	VVAULTをインストールする	15
	VVAULT管理ツールのログイン方法について	
3	初期設定	21
	管理ツールにログインする ――――	22
	レポートメールの送信先を設定する	23
4	マスタドライブを構成する	25
	▼ マスタドライブを共有する場合	
	管理フォルダーのデータを統合する	27
	マスタドライブをマウントする	28
	マスタドライブを共有する	30
	フォルダーのアクセス権を設定する	33
	▼ 既存の共有フォルダーを移行する場合	
	対象フォルダーの共有設定を解除する	38
	対象フォルダーを構成ストレージとして追加する	40
	マスタドライブをマウントする	43
	対象のフォルダーを共有する ―――――――――――――――――――――――	44

### ▼ 既存の共有ドライブを移行する場合

5

6

対象フォルダーの共有設定の解除する	48
対象フォルダーのアクセス権を設定する	50
対象フォルダーを構成ストレージとして追加する	52
マスタドライブをマウントする	54
対象のフォルダーを共有する	55
レプリケーションを構成する	59
レプリカドライブに接続する	60
▼ レプリケーション	
レプリケーションを開始する	62
▼ タイムマシーン	
タイトマシーン機能を有効にする	63
タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する	64
タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する データを復元する	64 <b>65</b>
タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する データを復元する ▼構成ストレージのデータを復元する場合	64 <b>65</b>
タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する データを復元する ▼構成ストレージのデータを復元する場合 ストレージリカバリを実行する	64 <b>65</b> 66
タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する データを復元する ▼構成ストレージのデータを復元する場合 ストレージリカバリを実行する ▼全てのデータを復元する場合	64 65 66
タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する データを復元する ▼構成ストレージのデータを復元する場合 ストレージリカバリを実行する ▼全てのデータを復元する場合	64 65 66 67
<ul> <li>タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する</li> <li>データを復元する</li> <li>▼構成ストレージのデータを復元する場合</li> <li>ストレージリカバリを実行する</li> <li>▼全てのデータを復元する場合</li> <li>レプリカドライブへ接続する</li> <li>復元先のストレージを追加する</li> </ul>	64 65 66 67 68
<ul> <li>タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する</li> <li>データを復元する</li> <li>構成ストレージのデータを復元する場合</li> <li>ストレージリカバリを実行する</li> <li>▼ 全てのデータを復元する場合</li> <li>レプリカドライブへ接続する</li> <li>復元先のストレージを追加する</li> <li>権限引き継ぎの準備をする</li> </ul>	64 65 66 68 69
<ul> <li>タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する</li> <li>データを復元する</li> <li>▼構成ストレージのデータを復元する場合</li> <li>ストレージリカバリを実行する</li> <li>▼全てのデータを復元する場合</li> <li>レプリカドライブへ接続する</li> <li>復元先のストレージを追加する</li> <li>権限引き継ぎの準備をする</li> <li>システムリカバリを開始する</li> </ul>	65 66 66 68 69 70
<ul> <li>タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する</li> <li>データを復元する</li> <li>★構成ストレージのデータを復元する場合</li> <li>ストレージリカバリを実行する</li> <li>◆全てのデータを復元する場合</li> <li>レプリカドライブへ接続する</li> <li>復元先のストレージを追加する</li> <li>権限引き継ぎの準備をする</li> <li>システムリカバリを開始する</li> <li>▼ファイルを個別に復元する</li> </ul>	64 65 66 67 68 69 70
<ul> <li>タイムマシーンでレプリケーションの状況を確認する</li> <li>データを復元する</li> <li>構成ストレージのデータを復元する場合</li> <li>ストレージリカバリを実行する</li> <li>◆ 全てのデータを復元する場合</li> <li>レプリカドライブへ接続する</li> <li>復元先のストレージを追加する</li> <li>権限引き継ぎの準備をする</li> <li>システムリカバリを開始する</li> <li>マアイルを個別に復元する</li> <li>復元元のソースを選択する</li> </ul>	65 66 67 68 69 70 70

対象のファイルを復元する 71 復元状況を確認する 73

7	管理フォルダーの構成を解除する	75
	▼ 管理フォルダーにアクセスする	
	1. Windows Server 2008 / 2008 R2、Windows Vista / 7の場合	76
	2. Windows Server 2003 R2 の場合	78
	3. Windows XPの場合	
	▼ マスタドライブが有効な場合の手順	
	共有されているフォルダーの共有を解除する	
	マスタドライブのセキュリティ情報を保存する	
	マスタドライブ上のフォルダーを別ドライブへ移動する	
	移動先のフォルダーにセキュリティ情報を復元する	
	移動先のフォルダーに共有設定を復元する	
	▼ マスタドライブが無効な場合の手順	
	管理フォルダーのデータを統合する	
	個別にセキュリティ情報を構成する	
	共有フォルダーの共有設定を構成する	
8	セキュリティ対策ソフトを設定する	91
	セキュリティ対策ソフトを設定する ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	92
	Symantec Endpoint Protection 12 の設定方法	92
	ウイルスバスター コーポレートエディションサーバ バージョン10.6 の設定方法	94
	McAfee VirusScan Enterprise 8.7iの設定方法	96
9	アンインストール	99
	VVAULTをアンインストールする	100

10	補足	101
	共有フォルダーにSYSTEM権限を追加する	102
	Windows XPでのVVAULT ルート証明書の登録手順	104

## はじめに

本文書は、株式会社オレガが保有するソフトウェアであるVVAULTを使用して、レプリカドライブにファイルサーバのデータをバックアップするための手順書です。

## 本書の適用範囲

- 本文書は、レプリカドライブへのファイルサーバのデータバックアップに関する部分のみを対象範囲とし、その他の機能・設定については 含まれません。
- 本文書の内容は設定・操作手順を中心とするものであり、製品やサービスの内部構造に関わる設計及び構造に関しては原則として含まれません。
- ・本文書の設定・操作手順はサーバOSを前提としたものであり、PC OSには対応していない場合があります。

## 用語の変更について

VVAULT 5.0.0にてHA(High Availability)機能を実現するにあたり、各機能の働きがより明確になるよう、これまで使用されていた 一部の用語を下記の通り変更いたしました。

VVAULT 4.x 以前のバージョンをご利用の方におかれましては、ご留意くださいますようお願い申し上げます。

変更前	変更後
仮想ドライブ	マスタドライブ
バックアップサーバー	レプリカドライブ
クラウドバックアップ	レプリケーション
ローカルバックアップ	バックアップ



VVAULT 導入ステップガイド[レプリケーション・クライアント編 ver.5.1]

## システム要件



### OSをアップグレードする際にはご注意ください

既に本製品がインストールされたコンピューターのOSを下記のいずれかにアップグレードした場合、本製品が互換性のないア プリケーションとして認識され、削除された状態となります。現在、下記OSに対しては新規インストールのみの対応となりますの で、ご注意ください。

- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows Storage Server 2012

CPU	Intel x86、x64 互換プロセッサ(Core 2 Duo 2GHz 以上推奨)
対応OS	PC OS Windows Home Server 2011 (64bit) Windows 8.1 (32bit / 64bit) ※1 Windows 8.1 (32bit / 64bit) ※1 Windows 7 (32bit / 64bit) Windows Vista (32bit / 64bit) Windows Vista (32bit / 64bit) Windows XP (32bit) サーパOS Windows Server 2012 R2 (64bit) ※2 Windows Server 2012 (64bit) ※2 Windows Server 2008 R2 (64bit) Windows Server 2008 R2 (64bit) Windows Server 2003 R2 (32bit / 64bit) Windows Storage Server 2008 R2 (64bit) Windows Storage Server 2008 R2 (32bit / 64bit) Windows Storage Server 2008 R2 (32bit / 64bit) Windows Storage Server 2003
メモリ	1GB以上(2GB以上推奨)
ディスク容量	500MB以上の空き容量 ※インストール後は、マスタモードで使用するコンテンツ数によってマスタモード/ライブバックアップDBデータ保存先のサイズも増減しますので、ご利用の環境に合わ せて適切な空き領域を確保してください。目安としては、DBデータ保存先別に100万コンテンツで2.1GB程度の容量が必要です。
必要ソフトウェア	Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft .NET Framework 3.5 日本語Language Pack SP1
対応ブラウザ	Internet Explorer 8 以降 (解像度:1024×768 推奨)
対応環境	ドメイン (ドメインコントローラ、ドメインメンバ) ワークグループ

※Windows XPでレプリケーション機能を利用するには、VVAULTのルート機関証明書を手動でインストールする必要があります。 ※レプリケーション機能は、プロキシサーバ経由の接続には対応しておりません。



## 注意事項

VVAULT License 5.0.よりBasicライセンスで接続できるストレージの合計容量が2TBに制限されています。2TB以上のデータを扱う場合は、別途有償ライセンスをご購入ください。

また、NTT コミュニケーションズが提供する[Biz シンプルディスクバックアップタイプ]をご契約のお客様で、上記Basicライセンスの制限を超えてご使用される場合は、同社から別途提供されるライセンスをご登録ください。

## インスタンスと稼働モード

## インスタンスとは

VVAULTのインスタンスとは、仮想ドライブシステムのまとまりのことを表し、仮想ドライブをマウントする単位となります。つまり、インスタンスが2つ使用可能な場合、マウントできる仮想ドライブも2つとなります。また、各インスタンスはそれぞれマスタモードとレプリカモードのいずれかの稼働モードで運用することが可能です。

## 稼働モードとは

稼働モードにはマスタモードとレプリカモードの2種類のモードがあり、インスタンス毎に設定できます。マスタモードは主に使用する仮想ド ライブ(マスタドライブ)をマウントするモードで、レプリケーション時のクライアントとなります。レプリカモードはレプリケーション時のサー バー側となるモードで、クライアントからのレプリケーションデータを蓄積します。





VVAULT 導入ステップガイド[レプリケーション・クライアント編 ver.5.1]

# step 1 VVAULTをダウンロードする

VVAULT製品サイト(http://vvault.jp/download/)にアクセスし、インストールする環境に応じて32bit版、または64bit版のインストー ラをダウンロードしてください。



### レプリケーションをご利用になる場合のご注意

VVAULTをインストールした2台のサーバー間でのレプリケーションを行う際、双方のVVAULTのバージョンに差異があると、正常に動作しなくなる可能性があります。同一バージョンのVVAULTでレプリケーションを行うようにしてください。



## 64bit・32bit環境の確認方法

### 以下のOSの場合は64bit版のインストーラーをご利用ください。

- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 R2
- Windows Storage Server 2012
- Windows Storage Server 2008 R2
- Windows Home Server 2011

### Windows 8の場合

- 1. 「スタート」画面で「デスクトップ」タイルをクリックまたはタップします。
- 2. 「チャーム」を表示し、「設定」をクリックまたはタップします。
- 3. [コントロールパネル]をクリックまたはタップします。
- 4. [システムとセキュリティ]をクリックまたはタップします。
- 5. [システム]をクリックまたはタップします。
- 6. 「システムの種類」を確認します。

### Windows 7/Windows Vista/Windows Server 2008の場合

- 1. [スタート] ボタンをクリックします。
- 2. [コンピューター]を右クリックし[プロパティ]をクリックします。
- 3. 「システムの種類」を確認します。

### Windows XP/Windows Server 2003 R2の場合

- 1. [スタート] ボタンをクリックします。
- 2. 「コンピューター」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。
- 3. 「システム」の下に [x64 Edition] が表示されている場合は64bit版、表示されていない場合は32bit版となります。

※尚、Windows XP、及びWindows Server 2003 R2については64bit版をサポート しておりませんのでご注意ください。

# STEP 2 Microsoft.NET Framework 3.5 SP1をインストールする

「STEP1 VVAULTをダウンロードする」の手順でダウンロードした「VVAULT-Setup~.exe」を実行すると、「Microsoft .NET Framework 3.5 SP1」がインストールされていない環境では、以下のセットアップ画面が表示されます。「インストール」をクリックしてイン ストールを実行してください。





### ネットワークに接続できない環境でインストールする場合

ネットワークに接続できない場合は、以下のURLより別途インストーラをダウンロードして下さい。 http://www.microsoft.com/downloads/ja-jp/details.aspx?familyid=ab99342f-5d1a-413d-8319-81da479ab0d7

## ▼ Windows Server 2008 R2 ヘインストールする場合







サーバーマネージャーウィンドウのツリーメニューより「機能」を選択します。



機能の概要から「機能の追加」をクリックします。



種能の追加ウィザード	▼オプションの確認
機能 確認 進行状況	:次の役割、役割サービス、または補能をインストールするには、【インストール】をグリックしてください。 () 次の1件の情報とッセージ
結果	<ul> <li>● インストールの完て後に、このサーバーの再起動が必要になる場合があります。</li> <li>● NET Framework 35.1 の螺旋</li> <li>■ NET Framework 35.1</li> </ul>
	<前へ(D) 次へ(D)> 【ノンストール(D) キャンセル

の進行状況
次の役割、役割サービス、または機能をインストールしています
.NET Framework 3.5.1 の機能
_
8
₹
● インストールしています…
(Martin) [164:003] [179] (M. Kashin [
く町へ(E) 次へ(E)> インストール(E) キャンセル

機能の追加す	フィザード		×
	インストールの結果		
機能		次の役割、役割サービス、または機能が正常にそ	シストールされました
進行状況		○.NET Framework 3.5.1 の標能	🔮 インストールが正常に完了しました
結果		次の掲載がインストールそれました NET Framework 3.5.1	
		インストールレポートの印刷、電子メール送信、	<u>\$201187</u>
		<	前へ(2) 次へ(11) 次へ(11) 開じる(20) キャンセル

機能の選択にて「.NET framework 3.5.1」を選択	L
ます。	



5

6 「次へ」ボタンをクリックします。



「インストール」ボタンをクリックします。



インストールが始まります。



インストールが正常に完了すると表示される「閉じ る」ボタンをクリックして「.NET Framework 3.5 SP1]のインストールを終了します。



		_	( <u></u>	~
😋 🔍 📲 🖡 👌 yoshimura 🖡 🖉	720-15	• 4g	ダウンロードの検索	٩
整理 ▼ ライブラリに追加 ▼			E • 🗍	0
★ お気に入り ダウンロード デスクトップ 雪 ライブラリ ドキュメント ビラオ ビラオ マニアシック	WAULT-Setup- x64-20.0			
■ コンピューター     ▲ ローカル ディスク (C:)     □ オリューム (E:)     □ オリューム (E:)     □ オリューム (C:)     □ オリューム (C:)     □ オリューム (H:)     □ オリューム (I:)     □ オリューム (I:)     □ オリューム (J:)     □ マリューク (J:)     □ マリューク (J:)				
1 個の項目				



使用許諾契約		
次の製品使用許諾契約を注意深くお読みください	, )o	( and
ソフトウェン	了使用許諾契約書	4
本ソフトウェアの使用者(以下、	「甲」といいます)は、甲	がライセンス確
認慮面上の「同音する」をクリック	オステレントレカ 地子今日	
	りることにより、1杯込去社・ モキスピードニト(以下	
には国家には、「同意」では、「クリック」 「乙」といい。300000000000000000000000000000000000	することにより、林氏云社∶ 有するプログラム(以下、 ル等の関連資料(以下、「:	オレカ(以下、 「本件プログラ 本件資料」とい
「乙」といいますが使用許諾権を ム」といいますが運用マニュア	9 ることにより、(料料云社) 有するプログラム(以下、 ル等の関連資料(以下、「: を合わせて「本件ソフトウ	オレカ(以下、 「本件プログラ 本件資料」とい ェア∣といいす ヱ
□ こう とういう あくう こう とう テリー 「乙」といいま 3 び運用マニュア います 木件 プログラム レ木件 資料 ○ 使用許諾契約の全条項(「同意します( <u>A)</u> ○ 使用許諾契約の条項(「同意しません( <u>D</u> )	りることにより、外払され 有するプログラム(以下、 い等の関連資料(以下、「: を合わせて「本件いフトウ 4	オレガ(以下、 「本件プログラ 本件資料」とい ェア」といいす ▼ 印刷(P)
	9 ることによりバット いたされ 有するプログラム(以下、 い等の関連資料(以下、「 を合わせて「本件いフトウ 4	オレガ(以下、 「本件プログラ 本件資料」とい <sub>ア</sub> フ   といいす ▲ En刷( <u>P</u> )



ダウンロードしたインストーラをダブルクリックし、イ ンストーラを起動します。

※ドメインメンバのマシンにインストールする場合は、ローカルの管 理者アカウントでログインしてから実行してください。



インストーラのウィザード開始画面にて「次へ」ボタ ンをクリックします。



使用許諾契約画面にて内容を確認し、「使用許諾契約の全条項に同意します(A)」を選択します。



「次へ」ボタンをクリックします。



機能選択画面にて「インスタンス1」を選択し「次へ」 ボタンをクリックします。

15

16





VVAULT – InstallShield Wizard 🛛 🔰
インストール準備の完了
インストールを開始する準備が整いました。
[インストール] をクリックしてインストールを開始してください。
インストール設定を確認または変更する場合は、「戻る」 をクリックします。ウィサ <sup>、</sup> トを終了するには、「キャンセル」をクリック します。
< 戻る(B) 【1)ストール】 キャンセル



6 プログラムのインストール先を指定(通常は規定の ままで問題ありません)し、「次へ」ボタンをクリックし ます。



マスタドライブDBデータの保存先を指定し、「次へ」 ボタンをクリックします。

※マスタドライブ上の属性情報が保存されますので、信頼度の高い 保存先を選択してください。また、マスタドライブにて管理されるフ アイル数によって使用する容量が変動しますので、十分な空き容量 のある場所を選択してください。容量の目安については「システム要 件(P.8)」を参照してください。





### 9 インストールが始まります。

※途中、コマンドプロンプト画面が表示されますが、自動的に終了しますので、特に操作は行わないでください。









※マスタドライブを利用するために必要なソフトウェアです。再イン ストールの際には表示されない場合があります。



11 「次へ」ボタンをクリックします。



「完了」ボタンをクリックし、コンピューターを再起動 するとインストールが完了します。

※VVAULTは再起動後にご利用可能となります。

## 補足 VVAULT管理ツールのログイン方法について

VVAULTの管理ツールにログインするには、OSに登録されている管理者のアカウント名およびパスワードが必要です。ただし、実際のアカウント名と表示されている名称が異なる場合がありますので下記手順に従い、管理ユーザーのアカウント名を確認し、管理ツールにログインします。



🔤 コマンド プロンプト	5
C:¥>net localgroup Administrators エイリアス名 Administrators コメント コンピューター/ド	メインに
メンバー  Administrator 俺我 太郎	
コマンドは正常に終了しました。	

5	コマンドプロンプトにて、下記コマンドを実行して、
	管理アカウントの一覧を表示します。

net localgroup Administrators

6 管理アカウント名が表示されていますので、確認します。尚、デフォルトでは「Administrator」ではログインできません。左図では「俺我太郎」が有効な管理アカウント名です。

	<b>AULT<sup>®</sup> Administration</b>	7
アカウ	ント名:俺我太郎	
パス	·ワード:	
	ログイン	8

7 VVAULT管理ツールのログイン画面を表示し、「ア カウント名」に 6 にて確認した管理アカウント名と、 「パスワード」にアカウントに設定されているパスワ ードを入力します。

※漢字名称の場合でも、そのまま指定してログインすることができます。また、パスワードを設定していない場合は空白のままとしてください。



「ログイン」ボタンをクリックして、VVAULTの管理 ツールにログインします。



VVAULT 導入ステップガイド[レプリケーション・クライアント編 ver.5.1]

## step 1 管理ツールにログインする

以下の方法でログイン画面へアクセスし、ローカルに存在する管理者アカウントにてログインしてください。(ドメイン環境の場合、アカウント名の先頭にドメ イン名の指定は不要です。)

	VAULT <sup>®</sup> Administration
Γ	アカウント名: administrator
Ľ	ログイン
	© OREGA Inc. All Rights Reserved.

## ログイン画面のアクセス方法

Windows 8/Windows Server 2012/Windows Storage Server 2012の場合

1. スタート画面を表示し、画面上のタイル以外の部分で右クリックします。

- 2. アプリ バーが表示されます。
- 3. [すべてのアプリ] をクリックします。
- 4. アプリケーションの一覧が表示されたことをご確認ください。

### それ以外のOSの場合

スタートメニューより、すべてのプログラム > VVAULT > administrationを クリックすると、Webブラウザが起動してVVAULT管理画面へのログイン画 面が表示されます。

## Q

### ブラウザの設定について

VVAULTの管理画面を利用するにはブラウザの設定を追加する必要があります。設定を追加するには、「コントロールパネル」 の「インターネットオプション」より「インターネットのプロパティ」を表示し、「セキュリティ」タブの「信頼済みサイト」にアドレスを登 録する必要があります。

Internet Explorer X
下に表示されている Web サイトのコンテンツは、Internet Explorer セキュリティ強化の構成によってブロックされています。
http://127.0.0.1
✓ Web サイトのコンテンツがブロックされる時は、このメッセージを表示する(O)
Internet Explorer セキュリティ強化の構成の詳細を表示します。
この Web サイトを信頼している場合、信頼済みサイトのゾーンに追加 すると、低いレベルのセキュリティでサイトを実行できます。この Web サイ トがローカル イントラネットにある場合、ヘルブの説明を参照して、ローカ ル イントラネットのゾーンにサイトを追加してください。
重要: この Web サイトを信頼済みサイトのゾーンに追加すると、この Web サイトのすべてのコ ンテンツは低いレベルのセキュリティで実行されます。これは Internet Explorer などのすべて のアプリケーションに影響します。

【登録が必要なアドレス】 http://127.0.0.1 about:blank

管理画面にアクセスして、左画像のようなダイ アログが表示される場合は、「追加」をクリックし て、「信頼済み」サイトに追加します。

# step 2 レポートメールの送信先を設定する

レポートメール送信機能を利用することで、障害情報等を設定したメールアドレスに通知することができます。予め、送信先のメールアドレス 側で、メールが受信できる状態であることを確認してから設定を行ってください。

YAULT Administration	1 「システム設定」ボタンから「レポートメール」タブを 開き、「レポートメールを送信する」をチェックします。
2         2(152) <th>2 メールの設定項目を入力します。 ※ みカ後は「送信テスト」ボタンをクリックレー正常にメールが送信される</th>	2 メールの設定項目を入力します。 ※ みカ後は「送信テスト」ボタンをクリックレー正常にメールが送信される
(出版デドレス: 34(F)→1(4): ボート巻き: バスワードをあた (活動が応知者: ※(注意)(元)、○ SSE注意	か確認することを推奨します。
	3 「適用」ボタンをクリックし、設定を保存します。
• © CREDA Inc. Al Rights Reserved. Ver 5.0.0	

## レポートメールが送信されるイベント

本システムでは、障害を含む以下のイベントが発生した場合に、設定されたメールアドレスにレポートメールを送信します。

- ・構成ストレージの使用量が全体容量の80%を超えた場合。又はその状態が解消された場合。
- ・構成ストレージへの接続ができなくなった場合。又はその状態が解消された場合。
- ・構成ストレージの取り外し処理が完了した場合。
- ・構成ストレージに設定された容量制限分の空き容量が確保できない場合。又はその状態が解消された場合。
- •マスタドライブへの既存データの取り込み処理が完了した場合。
- •マスタドライブへのクイックマイグレーション処理が完了した場合。
- マスタドライブで不整合ファイルを検出した場合。
- バックアップデータの初期化処理が完了した場合。
- ライブリカバリで保留ファイルが発生した場合。
- ・システムリカバリが完了した場合。
- ・ タイムマシーンでの復元処理が完了した場合。
- ・レプリカドライブへの接続ができなくなった場合。又はその状態が解消された場合。
- ・レプリカドライブで設定されたサービスポリシーに違反した場合。
- ・レプリカドライブのデータとの不整合を検出した場合。
- ・レプリカドライブのAPIバージョンとの不整合を検出した場合。
- ・レプリカドライブへの不正アクセスが規定回数を超えて行われた場合。
- レプリカドライブで不正な証明書を検出した場合。

- ・ ライセンスの有効期限に近づいた場合。
- レポートメールの送信テストを行った場合。
- •稼働モード切り換え時でセキュリティ変換できなかった場合。
- アカウント同期で同期エラーが発生した場合。
- レプリケーションデータ初期化処理が完了した場合。
- •インスタンス初期化処理が完了した場合。
- ・メインサーバーとスタンバイサーバーのライセンスIDチェックで違反があった場合。又はその状態が解消された場合。
- バックアップ不整合修復、レプリケーション不整合修復処理が完了した場合。



VVAULT 導入ステップガイド[レプリケーション・クライアント編 ver.5.1]

## 想定する構成について

下図のようにマスタドライブを設定し、マスタドライブを共有フォルダーとして公開する手順について説明します。この手順は、既存の共 有フォルダーに変更を加えず、マスタドライブを新規の共有フォルダーとして利用することを想定しています。既存の共有フォルダーをマ スタドライブに移行する手順については「▼ 既存の共有フォルダーを移行する場合 (P.37) 」「▼ 既存の共有ドライブを移行する場 合 (P.47) 」を参照してください。





## step 1 管理フォルダーのデータを統合する





ストレージ追加 追加するストレージの情報を入力して決定ボタンをクリックしてください ※管理対象パスに仮想ドライブで公開している共有フォルダは指定しな
種類 : 最速ストレージ▼ ストレージ名* : share2 管理対象バス* : C:¥share2 つよい・
ネットワークストレージへの接続
□ ユーザ名とパスワードを使用する
ユーザ名 : PC名(またはドメイン名)¥ユーザ名
決定 キャンセル

エクスプローラから「share2」という名前でフォルダ 一を新規作成します。

2 VVAULTの管理画面より、「マスタモード」タブを選択した状態で「ストレージ追加」アイコンをクリックします。

3 「ストレージ追加」のサブウィンドウにて、「ストレージ 名」に"share2"を「管理対象パス」に"C¥share2"を 「種類」については適当なものを選択してください。 不明な場合は「最速ストレージ」で問題ありません。











	インスタンス 1 マスタモード (V:) 🔻
タイムマシー 4	警告 障害情報 0
マスタドライブ Mount	ティアリング OFF 同期受付 OFF マスタモ
	適用



1 「マスタモード」タブメニューのマスタドライブ :[Unmount]をクリックしマスタドライブをマウント します。





依存関係のあるサービスを再起動する旨のメッセージが表示されますので「OK」をクリックします。





エクスプローラより「コンピューター」を開いて、マス タドライブがマウントされていることを確認します。



## ディスクタイプについて

マスタドライブのディスクタイプはデフォルトで「固定ディスク」となっています。 セキュリティ対策ソフト等、アプリケーションによっては特定のタイプとの組み合わせでのみ動作するものがありますのでご注意 ください。



VVAULT (\	£)
🥏 空き領域 1	<b>開く(O)</b> 新しいウィンドウで開く(E)
	共有(H) ▶
	フォーマット(A) 取り出し(J)
	切り取り(T) コピー(C)
	ショートカットの作成(S) 名前の変更(M)
使用領域:	プロパティ(R)

🚙 VVAULT (V:)のプロパティ 🗾 🛛 🔀
全般(ツール)ハードウェア 共有 ビキュリティ カスタマイズ)
~ネットワークのファイルとフォルダーの共有
V:¥ 共有されていません
ネットワーク パス( <u>N</u> ): 共有されていません
共有(S)
詳細な共有 カスタムのアクセス許可を設定したり、後半の共有を作成したり、その他の詳 細な共有のオプションを設定したりでき 3
- パスワード保護
共有フォルダーにアクセスするには、ユーザー アカウントとパスワードが必要です。
この設定を変更するには ネットワークと共有センター を使用してください。
OK キャンセル 道用( <u>A</u> )

1 エクスプローラからマスタドライブを選択した状態 で、右クリックメニューを表示し、プロパティを選択し ます。



プロパティ画面より「共有」タブを選択します。



「詳細な共有」をクリックします。

※Windows Server 2003 R2 では「詳細な共有」ボタンがなく、タ ブ内に詳細が表示されています。

詳細な共有	×
4 「▼ このフォルダーを共有する(S)	
共有名(山):	
share2	
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721 三	
אנאב (0):	
5	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	
OK キャンセル 適用	

🔋 share2 ወアクセス	ትጣ 📕	_	×
共有アクセス許可			
グループ名またはユー	ザー名( <u>G</u> ):		
& Everyone			
		追加( <u>D</u> )	肖J\$徐( <u>R</u> )
Everyone のアクセス	許可( <u>P</u> )	許可	拒否
フルコントロール			
変更 読み取り			
8760742.5			
レ アクセス制御とアクセン	ス許可の調 7 長沢	示します。	
	ОК	キャンセル	

細な共有	2
✓ このフォルダーを共有する(S)	
設定	
共有名( <u>日</u> ): [share2]	
追加(A) 削除(R)	
	1677721 🔆
- 	
OK ***/17/	適用 [



「このフォルダーを共有する」にチェックを入れ、共有 名に「share2」を入力します。





共有アクセス許可するグループまたはユーザーを追 加し、アクセスの許可/拒否を設定します。ここでは 「Everyone」に対して全てを許可しています。



設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックして「アク セス許可」の画面を閉じます。



「詳細な共有」の画面に戻り、「OK」をクリックしま す。さらに、開かれているドライブのプロパティ画面も 「OK」をクリックして閉じてください。

※詳細に設定したい場合は、「既存の共有フォルダーを移行する場合」の手順「対象のフォルダーを共有する (P.44)」を参照してください。



Q

エクスプローラより「コンピューター」を開くと、マス タドライブに共有が設定されている状態のアイコン が表示されています。

※共有設定はマスタドライブ全体ではなく、マスタドライブ内の任意のフォルダーに対しても設定することができます。フォルダーに対して共有設定する場合は「既存の共有ドライブを移行する場合」の 「対象のフォルダーを共有する (P.55)」を参照してください。



マスタドライブ上のフォルダーにアクセス権限を設定します。マスタドライブ上に新規に作成されたフォルダーはドライブに設定されているデ フォルトのセキュリティ情報を引き継ぎます。「部署C」のフォルダーに個別にセキュリティを設定する必要がある場合は、下記の手順で設定し ます。









2 エクスプローラからマスタドライブを選択した状態 で、右クリックメニューを表示し、プロパティを選択し ます。



「部署C」フォルダーのプロパティ画面にて、「セキュリ ティ」タブを選択します。



「詳細設定」をクリックします。

Barac Mi     C     M     C	ビイエリノイの言葉軸語文化			
アクセス許可	監査  所有者   有効なアクセス許	न		
アクセス許可	可エントリの詳細を表示するには、目的の	Dエントリをダブルクリックしてくた	ぎさい。アクセス許可に多	変更を加えるには、[アクセス許可の変更] を
オブジェクト	名· V:¥部署C			
アクセス訴す	可エンドリ(①):			
種類	名前	アクセス許可	継承元	適用先
許可	Administrator (WIN-UAVSHB	特殊	V:¥	このフォルダーのみ
許可	CREATOR OWNER	特殊	V:¥	サブフォルダーとファイルのみ
許可	SYSTEM	フル コントロール	V:¥	このフォルダー、サブフォルダーお
許可	Administrators (WIN-UAVSH	フル コントロール	V:¥	このフォルダー、サブフォルダーお
許可	Users (WIN-UAVSHB8637L¥	特殊	V:¥	このフォルダーとサブフォルダー
許可	(WIN-UAVSHB8637L¥	読み取りと実行	V:¥	このフォルダー、サブフォルダーお
許可	5 (WIN-UAVSHB8637L¥	ファイルの作成/データの	親オブジェクト	このフォルダーのみ
アクセス	許可の変更( <u>C</u> )			
120オブ	マジェクトの親からの雑歌で指わなアクセス語	千可を含める(1)		

ブジェクト	名: V:W部署C			
りセス許可 研究	可Iン円(I): 「 名前	カセフ 注 可	総正元	潮田失
(王 <sup>大)년</sup> (上) (二)	Administrator (MIN-UA)/SHB 結	シロハロー) 3件	162406	
11-1 注 <b>可</b>	CREATOR OWNER #	1/m 1/m	V/¥	サブフォルダーとファイルのみ
भागाः संच्या	SVSTEM 7	//* 네. ㅋン	1/4	このつきしなー サブウェルなーた
11-1 注 <b>可</b>	Administratore (W/N-UA)/SH 7		1/4	このフォルダー サブフォルダーお
भागाः संच्या	Home (WTN=116)/SUD96971X \$	70 J.21 U 70	1/4	このフォルダーンサブラネルダー ロ
11-1 注 <b>可</b>	Users (WIN-UA)/SHB86371¥ #	いまでいた事行	1/4	
(				<u> </u>
				0
追加	ILU 編集(E)	前原紙匠		<b>7</b>
2017	ジェクトの親からの批本可能なアクセス許可	[を含める(1)		





ユーザー または グループ の選択	? ×
オブジェクトの種類の選択(S):  ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル	オブジェクトの種類(の)
場所の指定( <u>F</u> ): WIN-UAVSHB8637L	
·	名前の確認(2)
	OK キャンセル



「セキュリティの詳細設定」画面にて「アクセス許可の 変更」をクリックします。

6

「このオブジェクトの親からの継承可能なアクセス許 可を含める」のチェックを外します。



親から継承された権限を削除するため、「削除」をクリックします。

8

新規のエントリを追加するため「追加」をクリックしま す。



ユーザー または グループ の選択		? ×
オブジェクトの種類の選択(S):		
ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル		オブジェクトの種類( <u>O</u> )
場所の指定(E):		
WIN-UAVSHB8637L		場所( <u>L</u> )
遅択するオブジェクト名を入力してくださ(ヽ( <u>@</u> l)(E)		
WIN-UAVSHB8637L¥部署C		
詳細設定(A)	ОК	++>ULI

部署C のアクセス許可エントリ オブジェクト			×
名前(N): 部署C (WIN-UAVSHB8637L¥	部署C)	変更( <u>C</u> ).	
適用先(Q): このフォルダー、サブフォルダー アクセス許可(P):	およびファイル 許可	拒否	<u> </u>
フルコントロール フォルダーのスキャン/ファイルの実行 フォルダーの一覧/データの読み取り 属性の読み取り 拡張属性の読み取り ファイルの作成/データの書き込み フォルダーの作成/データの追加 属性の書き込み 拡張属性の書き込み サブフォルダーとファイルの削除 削除			
<ul> <li>これらのアクセス許可を、このコンテナーのの ブジェクトやコンテナーにのみ適用する(T)</li> <li>アクセス許可の管理</li> </ul>	₽Сあа <del>л</del> 11	<u>すべ(クリ)</u>	
	ОК	<b>キャン</b>	セル

	14 19 J 1 0/34 Mills DE			
セス許可	1			
クセス許可	Tエントリの詳細を表示または編集する	には、エントリを選択してた	いら、[編集] をクリックしてくた	だい。
フシェクト	名: V:#品/提C			
りセス許可	TIンドV(I):			
種類	名前	アクセス許可	維承元	適用先
许可	部署C(WIN-UAVSHB8637L¥.	. フルコントロール	〈維承なし〉	このフォルダー、サブフォルダーお
1610	275(	高I版全(P)		
1670	<u>(D</u> 編集(E)	<u>育场余(R)</u>		
追加 このオブ	RDJ 編集(E) ジェクトの親からの継承可能なアクセス	<u>削卵秋(R)</u> 許可を含める(D)		
這加 このオブ 子オブジ	(D) 編集(E) ジェクトの現からの批承可能なアクセス シェクトのアクセス許可すべてを、このオ:	削除(B) 許可を含める(D がジェクトからの継承可能な	3770世ス3年可で置き換きる 12	(9)
追加 このオブ 子オブジ <u>ウセス計画</u>	(D 編集(E) ジェクトの親からの継承可能なアクセン シェクトのアクセス許可すべてを、このオフ TTン/Hの管理	<u> 単原秋(日)</u> 許可を含める(1) ジジェクトからの継承可能な	279世23年可で <del>思考的</del> 考察	

10	検索
	44.50

された結果が表示されますので、追加する場合 は「OK」をクリックします。



11 選択したユーザーまたはグループのアクセス許可を 設定し、「OK」をクリックします。



12 続けて別のユーザーまたはグループを設定する場 合は 8 ~ 11 の手順を繰り返してください。 完了する場合は、「OK」をクリックします。

📕 部署Cのフロパティ				×
全般 共有 セキュ!	ティ カスタマイズ )			
オブジェクト名: V3	倍署C			
グループ名またはユーサ	·-名( <u>G)</u> :			
₩ 部署C (WIN-UA	VSHB863/L¥部署C	)		
アクセス許可を変更する	る(こは [編集] をクリック		編集( <u>E</u> )	
部署C のアクセス許可	( <u>P</u> )	許可	拒否	
די באר אר		$\checkmark$		<b>_</b>
変更		$\checkmark$		
読み取りと実行	<b>*</b> ** <b>-</b>	$\checkmark$		
フォルターの内容の一	↑覧表示	~		
読み取り		~		
「書き込み」				<u> </u>
特殊なアクセス許可まれ 「詳細設定」をクリックト	こは詳細設定を表示。 ます。	ອຈເວເສ. [	詳細設定(⊻	
	12			
アクセス制御とアクセス	千回の「2 表示し	<u>ta</u>		
	ОК	キャンセル	道用	( <u>A</u> )

<b>P</b> 192.168.7.152			
🌀 🕞 🕫 • Հ৯৮০–০ • 192.168.7.152 •			- [
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) ツール(T) ヘルプ(H)			
🕒 整理 ▼ 🔳 表示 ▼	💱 ネットワークと共有セ	<sup>ンター</sup> 14	
お気に入りリンク	_名前 ←  ▼  種類	+  -XVF  -	
K+1x2h			
E ピクチャ			
🝺 ミュージック			
😼 最近の変更			
P 検索	share	share2	プリンタ



「部署C」のフォルダープロパティ画面にて、グループ 「部署C」のみがアクセス可能に設定されたことが確 認できます。完了する場合は「OK」をクリックしてプ ロパティ画面を閉じます。



14 同一ネットワーク上にある他のPCから、本製品をイ ンストールしたマシンにアクセスし、マスタドライブ 上に構築した共有フォルダー「share2」にアクセスで きることを確認します。
# 想定する構成について

下図のように共有フォルダーとして公開しているデータをVVAULTのマスタドライブへ移行する手順について説明します。この手順は、既存の共有フォルダーとして設定されたフォルダーをマスタドライブへ移行することを想定しています。マスタドライブを新規の共有フォルダーとして設定する場合は「マスタドライブを共有する(P.30)」を参照してください。





- ① 部署A、部署Bフォルダーの共有を解除する
- 各フォルダーをマスタドライブの構成ストレージ「部署A」 「部署B」としてそれぞれ取り込む
- ③ マスタドライブをマウントする
- ④ マスタドライブ上の各フォルダーを、「部署A」「部署B」という 共有名で共有する

「部署A」「部署B」のフォルダーは移行後も移行前と同様に、 パス:¥¥fileserver¥部署A パス:¥¥fileserver¥部署B としてアクセスできる

#### 1 対象フォルダーの共有設定を解除する STEP

対象となる「部署A」「部署B」両方のフォルダーに対し以下の手順を実施し共有設定を解除します。





詳細な共有	×
共有名(出):	
部署A	-
<b>追加(A)</b> 肖耶余(R)	
同時に共有できるユーザー数(し): 1	677721 🛨
O)، در (O)،	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	

エクスプローラから共有設定されているフォルダー 1 を選択した状態で、右クリックメニューを表示し、プ ロパティを選択します。





「詳細な共有」をクリックします。

※Windows Server 2003 R2 では「詳細な共有」ボタンがなく、 タブ内に詳細が表示されています。



4 「アクセス許可」ボタンをクリックします。

📜 部署A のアクセス許同	т		×
共有アクセス許可		5	
グループ名またはユーザ	-名( <u>G</u> ):		
& 部署A (WIN-UA	VSHB8637L¥部署	雪A)	
ľ		;启加(D)	肖// (R)
が安くのフトレンシュー	(D)		
部者H のアクセス計画	Ð	許可	
□□ フル コントロール 恋面			님 📗
読み取り			- H - H
			PI
フカセフ生じ細をフカセフョ	<u>ن</u> م م ا	-1.+7	
	T-10)		
	ОК	キャンセル	適用( <u>A</u> )

			-
追加( <u>A</u> )	削除( <u>R</u> )		
同時に共有でお	きるユーザー数(L):		
י(2)אלאב			





全て記録し終わったら、「OK」をクリックしてウィンド ウを閉じます。



8 「OK」をクリックします。
 さらに、開かれているフォルダープロパティ画面も閉じます。

これで「部署A」フォルダーの共有が解除され ました。「部署B」フォルダーについても、同様 に 1 ~ 8 の操作を実施し、共有を解除してくだ さい。



# 共有フォルダーに設定されているフォルダーを見つけるには

共有フォルダーが実際どのフォルダーに設定されているかを確認するには、「コントロールパネル」の「管理ツール」から「共有と記 憶域の管理」をクリックします。表示された画面の「共有」のタブに、現在設定されている「共有名」およびその「ローカルのパス」情報 が表示されます。

122 共有と記憶板の管理						_ D ×
😠 ファイル(E) 操作(A) 表示(y)	- ウルドウ(W) - ヘル	ブ(日)				@_×
💠 🔿 📅 🛃 📷						
12 共有と記憶域の管理(ローカル)	共有と記憶域の管	理(ローカル)			操作	ŧ.
	共都一般ローム	1			共	に記憶板の管理(ローカル) 🔺
	6個のエントリ			1		別のコンピューターへ接続。
	##2	tokau	0-til 162 bash 2m/ 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		記憶城の準備。
	0. 701 701 69	0/6 7 (= 1)	1 AND 5 78 5 7810.	2011 E 2 98 40	22	共有の準備
	ADMINS	SMR	OWWindows	499.0B	-	セッションの管理
	90 C\$	SMB	C¥	499 GB		聞いているファイルの管理。
	900 D\$	SMB	D¥	165 GB	-	表示 🕨
	1 IPC\$	SMB		-		ここから新しいウィンドウ
	😥 Share	SMB	vWShare	155 GB		#465-71-12.501-W85
	93# V\$	SMB	V.¥	155 GB		ACCENT OF A REAL PROVIDENCE OF
					6	////
					Shi	are 🔺
					×	共有解除。
						プロパティ
					?	ヘルプ



対象となる「部署A」「部署B」両方のフォルダーに対し以下の手順を実施し構成ストレージとして追加します。

VAULT <sup>®</sup> Administration	
マスタモード (₩:)	レブリカモード
<u>\$</u>	
🗆 🥪 VVAULT (W:)	VVAULT (W:)
■ 🏤 最速ストレージ	
■ 🎲 高速ストレージ	

ストレージ追加 追加するストレージの情報を入力して決定ボタンをクリックしてください ※管理対象バスに仮想ドライブで公開している共有フォルダは指定しないでください				
種類* : 最速ストレージ ▼				
ストレージ名* : 部署A				
· 管理対象バス*: C:¥部署A				
*				
1				
ネットワークストレージへの接続				
□ ユーザ名とパスワードを使用する				
ユーザ名 : PC名(またはドメイン名)¥ユーザ名				
バスワード: 2 パスワードを表示				
決定 キャンセル				

VVAULTの管理ツールより、「マスタドライブ」タブ を選択した状態で、「ストレージ追加」アイコンをクリ ックします。

2 「ストレージ追加」のサブウィンドウにて、「ストレージ 名」に"部署A"を「管理対象パス」に"C:¥部署A"を入 力して「決定」をクリックします。種類については適当 なものを選択してください。不明な場合は「最速スト レージ」で問題ありません。

既存のデータを取り込む場合、下記の手順に従い、データを取り込みます。

# マスタドライブにデータを取り込む前に

マスタドライブにデータを取り込むには、取り込みデータにSYSTEMアカウントのフルコントロール権限を付与する必要があります。 詳細については、「既存の共有ドライブを移行する場合」の移行手順「対象フォルダーのアクセス権を設定する (P.50)」を参照し てください。

#### バックアップ対象について

VVAULTのバックアップ機能は、マスタドライブにて管理されるすべてのデータをバックアップ対象とします。そのため、バックアップが不要な共有フォルダーについては、マスタドライブに取り込む必要はありません。







ストレージ追加 追加するストレージの情報を入力して決定ボタンをクリックし ※管理対象パスに仮想ドライブで公開している共有フォルタ	てください れ指定しないで	<ださい <b>7</b>
種類* : 最速ストレージ▼ ストレージ名* : 部署B 管理対象パス* : D·¥部署B コメント :	4	
ネットワークストレージへの接続		
□ ユーザ名とバスワードを使用する		
<b>ユーザ名 :</b> PC名(またはドメイン名)¥ユーザ名		
パスワード :	□ /	1スワードを表示
	決定	キャンセル





管理対象パス下に取り込み対象のデータが存在する 場合は「取り込む」ボタンをクリックします。

※管理対象パスに除外したいデータが含まれる場合は「取り外す」 ボタンをクリックしてストレージを解除し、目的のデータのみ含まれ るように調整し、構成ストレージを追加してください。

5

「部署Aを取り込んでもよろしいですか?」というメッセージが表示されますので「OK」をクリックします。



既存データの取り込みが実施されます。



「部署B」のフォルダーも「部署A」と同様に、ストレージとして追加します。

VAULT <sup>®</sup> Administration							
■ マスタモード (₩:)							
(\$4 (\$4 (\$4) (\$4) (\$4) (\$4) (\$4) (\$4) (\$	8						
= 🗢 VVAULT (V:)	最速ストレージ						
□ 🎲 最速ストレージ							
■ 🕺 部署A							
■ 🕺 部署B							
■ 🐼 高速ストレージ	🔲 🕺 部署A …「VVAULT」とデータ						
	🔲 🕺 部署B 「VVAULT」 とデータ						



# 2つ以上の共有フォルダーを取り込むには

VVAULT Basic で追加できる構成ストレージは2つまでです。2つ以上の共有フォルダーを同時に取り込む場合は、有償ライセン スをお買い求めください。なお、十分容量の大きなストレージを構成ストレージとして追加した状態で、共有フォルダーに対してスト レージの追加(取り込み)、取り外しの手順を繰り返すことで、複数の共有フォルダーをマスタドライブに取り込むことができます。な お、複数の共有フォルダーが含まれる上位のフォルダーが存在する場合は、そのフォルダーを管理対象パスとして指定することに よって複数の共有フォルダーを同時に取り込むことが可能です。ただし、管理対象パス以下にアプリケーションやシステムで利用す るフォルダーが含まれないようにする必要があります。







Web ペーう	うからのメッセージ	X
2	仮想ドライブ上の共有フォルダを有効化するため「Server」サービスも再起動しますか? ※「Server」サービスの再起動は多少時間がかかります。またその間他の共有フォ ルダを一時的に利用できなくなります。 ※キャンセルすると「Server」サービスは再起動されずに	
	OK キャンセル	

	インスタンス1 マスタモード(い) 🔻
タイムマシーン 4	警告-障害情報 0
マスタドライフ Mount	ティアリング OFF 同期受付 OFF マスタモ
	適用



「マスタドライブ」タブメニューのマスタドライブ :[Unmount]をクリックしマスタドライブをマウン トします。

※マスタドライブのマウントは、構成ストレージが同期中でも操作可能です。



確認のメッセージが表示されますので、「OK」をクリ ックします。



確認のメッセージが表示されますので、「OK」をクリ ックします。



マスタドライブが起動すると「Mount」の状態となります。



エクスプローラより、「コンピューター」を開いて、マ スタドライブがマウントされていることを確認します。



👝 VVAULT (V:)			
	パューター → VVAUL	T (V:) 👻	
整理 👻 ライブラリ(よ	追加 ▼ 共有 ·	▼ 新し	いフォルダー
名前 ▲1			更新日時
🔑 部署A			2012/03/21 0:5
퉬 部署B			2012/03/21 0:5



📙 部署Aのプロパテ 3	X		
全般 共有 2キュリティ 以前のバージョン カスタマイズ			
部署A 共有されていません			
ネットワーク パス( <u>N</u> ): 共有されていません			
[共有(S)]			
- 詳細な共有 カスタムのアクセス許可を設定したり、複数の共有を作成したり、その他の詳 細な共有のオプションを設定したりでき。4			
登 詳細な共有(D)     登 詳細な共有(D)     登 詳細な共有(D)			
- パスワード保護 共有フォルダーにアクセスするには、ユーザー アカウントとパスワードが必要で す。			
この設定を変更するには <u>ネットワークと共有センター</u> を使用してください。			
OK キャンセル 道用( <u>A</u> )			





マスタドライブ上の「部署A」フォルダーの右クリック メニューより「プロパティ」を選択します。



フォルダープロパティのサブウィンドウより「共有」タ ブを選択します。



「詳細な共有」をクリックします。

※Windows Server 2003 R2 では「詳細な共有」ボタンがなく、 タブ内に詳細が表示されています。

<sup>編</sup> な共有 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	
マ このフォルターを共有する(S)	
共有名(日):	
ip)者A	
追加( <u>A</u> ) 削除( <u>B</u> )	
同時(こ共有できるユーザー数( <u>し</u> ):	1677721 芸
コメント(0):	
6	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	

🖡 部署A のアクセス許可	×
共有アクセス許可	
グループ名またはユーザー名( <u>G</u> ):	
& Everyone	
	7
,	, 追加( <u>D</u> ) 肖川除( <u>R</u> )

ユーザー または グループ の選択	? ×
オブジェクトの種類の選択(S):  ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル	オブジェクトの種類(Q)
場所の指定(E): WIN-UAVSHB8637L 8	場所( <u>L</u> )
選択するナブジェクト名を入力して(ださい( <u>個)(E)</u> 年代変ム	
0****1	
詳細設定( <u>A</u> ) OK	キャンセル

ユーザー または グループ の選択		? ×
オブジェクトの種類の選択(S)  ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル		オブジェクトの種業賃(の)
場所の指定( <u>F</u> ): WIN-UAVSHB8637L		場所( <u>L</u> )
選択するオブジェクトをを入力してください ( <u>例)(E</u> )		
WIN-UAVSHB8687L¥部署A		- <u>\$</u> 前0確認( <u>C</u> ) - <b>9</b>
】 詳細設定( <u>A</u> )	ОК	, キャンセル

	追加( <u>D</u> )	<u>削除(R)</u>
部署A のアクセス許可(P)	許可	
フル コントロール 変更 読み取り	N N	
OK	キャンセル	適用( <u>A</u> )

5 「このフォルダーを共有する」にチェックを入れます。



「アクセス許可」ボタンをクリックします。



「部署Aのアクセス許可」ウィンドウより「追加」ボタン をクリックします。





オブジェクトが正しく検索されたら、「OK」ボタンをク リックします。



追加する必要のあるグループまたはユーザーの数 だけ、7~10の手順をくりかえしてください。

📜 部署A のアクセス許可	×
共有アクセス許可	
& Everyone	
総部署A (WIN-UAVSHB8637L¥部署A)	
追加(D)   削り	除(R)

■ 部署A のアクセス許可		>
共有アクセス許可		
グループ名またはユーザー名( <u>G</u> ):		
総部署A (WIN-UAVSHB8637L	¥部署A)	
	追加( <u>D</u> )	(
部署Aのアクセス許可(P)		
変更		
読み取り		
読み現灯		
記念が見灯		
読み取り		
読み取り アクセス制御とアクセス許可の 12	☑ 表示します。	





12 「部署Aのアクセス許可」が、STEP1の「部署Aのアク セス許可」と完全に同じ状態になったら、「OK」ボタン をクリックしてこのウィンドウを閉じます。

13 最後に、クライアントPC のエクスプローラから、ファ イルサーバに移行前と同様にアクセスできることを 確認します。

以上で移行は完了です。

# フォルダー共有時のご注意

共有するフォルダーのセキュリティにSYSTEM権限が無い場合に、共有経由のアクセスでエラーが発生します。 共有フォルダーのセキュリティにSYSTEM 権限が含まれていない場合は「**共有フォルダーにSYSTEM権限を追加する (P.102)**」 の手順に従って、追加してください。

# 想定する構成について

下図のように共有フォルダーとして公開しているデータをVVAULTのマスタドライブへ移行する手順について説明します。この手順は、ドラ イブに対して共有設定されている共有フォルダーをマスタドライブへ移行することを想定しています。マスタドライブを新規の共有フォルダ ーとして設定する場合は「マスタドライブを共有する(P.30)」を参照してください。また、フォルダーに対して共有設定されている場合は 「▼ 既存の共有ドライブを移行する場合(P.47)」を参照してください。





- ① ドライブDの共有を解除する
- ドライブDをマスタドライブの構成 ストレージ[share]として取り込む
- ③ マスタドライブをマウントする
- ④ マスタドライブ上の[share]フォルダーを共有名[share]という名前で共有する
   移行後も「部署A」「部署B」のフォルダーはそれぞれ、
   パス:¥¥fileserver¥share¥部署A
   パス:¥¥fileserver¥share¥部署B
   としてアクセスできる

# STEP 1 対象フォルダーの共有設定の解除する

ポリューム (D:)	
靈堂 空き領域 9.9	<b>開く(O)</b> 新しいウィンドウで開く(E) 自動再生を開く(Y)
🔝 DVD ४२४७	共有(H) ▶
	シャドウ コピーの構成(W)… 以前のバージョンの復元(V) ライブラリに追加(I)
	フォーマット(A)
	⊐ピ–(C)
	ショートカットの作成(S) 名前の変更(M)
	プロパティ(R)

๗ァ ポリューム (D:)のプロパティ	x
シャドウコピー   以前のバージョン   <u>クォータ  </u> カスタマイズ 全般   ツール   ハードウェア   共有   <mark>2</mark> リティ	
ネットワークのファイルとフォルダーの共有 D.¥	
共有( <u>S</u> )	
詳細な共有 カスタムのアクセス許可を設定したり、複数の共有を作成したり、その他の詳 細な共有のオプションを設定したりできます。	
共有フォルターにアクセスするには、ユーザー アカワントとバスワードが必要で す。	
この設定を変更するには ネットワークと共有センター を使用してください。	
OK キャンセル 適用(A)	

 エクスプローラから共有設定されているドライブを 選択した状態で、右クリックメニューを表示し、プロパ ティを選択します。



プロパティ画面より「共有」タブを選択します。



「詳細な共有」をクリックします。

※Windows Server 2003 R2では「詳細な共有」ボタンはありま せんが、「共有」タブの選択によって詳細が表示されますので問題あ りません。

詳細な共有
設定
共有名( <u>I</u> ):
追加( <u>A</u> )         削除( <u>B</u> )
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721 ÷
<u>(0)، دید</u>
4
アクセス許可(P) キャッシュ(C)
OK キャンセル 適用

📕 share ወアクセス許可		X
共有アクセス許可	5	
グループ名またはユーザー名( <u>G</u> ):		
& Everyone		
	追加( <u>D</u> )	削除( <u>R</u> )
Everyone のアクセス許可(P)		
עב ער		
変更		
読み取り		
アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示	TLE 6	
ОК	キャンセル	適用( <u>A</u> )

このフォルターを共有する(S)	
<b>改定</b> 共有名(日):	
	<b>T</b>
追加( <u>A</u> ) 削除( <u>B</u> )	
同時に共有できるユーザー数(_):	
:(Q)+לאב	
アクセス許可(P) キャッジョ(の)	



4 「アクセス許可」ボタンをクリックします。



5 共有の再設定に備えて、共有アクセス許可されてい る全てのグループおよびユーザーを記録し、また、グ ループおよびユーザー毎のアクセス許可情報を記録 します。



全て記録し終わったら、「OK」をクリックしてウィンド ウを閉じます。



「このフォルダーを共有する」のチェックを外します。



[OK]をクリックします。 さらに、開かれているフォルダープロパティ画面も閉 じます。

これで「ドライブD」の共有が解除されました。



マスタドライブにデータを取り込むには、対象のフォルダーにSYSTEMアカウントのフルコントロール権限を与える必要があります。フォル ダー等のセキュリティをカスタマイズしている場合は、以下の手順で権限を追加してください。



	×
全般   共有 セキュリティ 以前のバージョン カスタマ	イズ
オブジェクト名: D:¥部署A	3
グループ名また(はユーザー名(G):	<u> </u>
& 部署A (WIN-UAVSHB8637L¥部署A)	
- カカセフキロも変更する(1件「絶世」も力しゅか	(存在(に)) しし
アクセス許可を変更する(こは [編集] をクリック:	編集( <u>E</u> )
アクセス許可を変更するには[編集]をクリック: 部署Aのアクセス許可(P) 許可	編集( <u>E</u> ) 拒否
アクセス許可を変更する(こは [編集] をクリック: 部署A のアクセス許可(P) 許可 フル コントロール ✓	編集(E) 拒否
アクセス許可を変更する(こは[編集]をクリック:     部署A のアクセス許可(P)     許可     フルコントロール     変更     ✓	編集(E) 拒否
<ul> <li>アクセス許可を変更する(こは【編集】をクリック:</li> <li>部署Aのアクセス許可(P)</li> <li>許可</li> <li>フルコントロール</li> <li>ダ更</li> <li>読み取りと実行</li> </ul>	
アクセス許可を変更する(こは[編集]をクリック:         部署Aのアクセス許可(P)         許可         フルコントロール         変更         読み取りと実行         フォルダーの内容の一覧表示	
アクセス許可を変更する(こは[編集]をクリック: 部署Aのアクセス許可(P) 許可 フルコントロール ✓ 変更 ✓ 読み取りと実行 ✓ フォルダーの内容の一覧表示 ✓ 読み取り ✓	
アクセス許可を変更する(cは [編集] をクリック:     部署A のアクセス許可(P)     許可     フル コントロール     変更     えの取りと実行     フォルダーの内容の一覧表示     読み取り     まき込み     オ	
<ul> <li>アクセス許可を変更する(こは【編集】をクリック:</li> <li>部署Aのアクセス許可(P)</li> <li>ド可</li> <li>フルコントロール</li> <li>変更</li> <li>ブルコントロール</li> <li>変更</li> <li>読み取りと実行</li> <li>フォルダーの内容の一覧表示</li> <li>読み取り</li> <li>書き込み</li> <li>特殊なアクセス許可または詳細設定を表示する(こは、 [詳細設定]をクリックします。</li> </ul>	編集(E)… 拒否 ▲ ↓ ↓

 エクスプローラからフォルダーを選択した状態で、右 クリックメニューを表示し、「プロパティ」を選択しま す。



フォルダーのプロパティ画面にて「セキュリティ」タブ を選択します。



設定されているグループまたはユーザーを確認しま す。

左画像の場合、アクセス許可されているグルー プまたはユーザーは「部署A」のグループのみで、 SYSTEMアカウントへのアクセス許可がないため、取 り込み処理でエラーとなります。

C:¥> C:¥> C:¥> C:¥>	
C:¥> C:¥> C:¥>	
C:¥> 4 C:¥>	
C:¥> ′	
U:¥>icacls D: /grant SYSTEM:(UI)(UI)(F) /T_	

🧵 部署Aのフロパティ			×
全般 共有 セキュリティ 以前のバージョ	ン「カスタマイス	()	
オブジェクト名: D:¥部署A			5
グループ名またはユーザー名( <u>G</u> ):			
SYSTEM			
● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●			
	•	<b>絙生(E)</b>	
		+=	-
STSTEM ()//JUXa+II(P)	計可	担告	
	√		-
後史 また。 Revolution	✓.		
読み取りと美行	~		
ノオルターの内谷の一覧表示	~		
読みれり	√.		
	+7(-(+		
「「特殊などのころ」です。 「「詳細設定」をクリックします。	- ICIA	詳細設定(⊻	
アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示しま	<u>हेर्च.</u>		
ОК	キャンセル	道用	( <u>A</u> )

取り込み対象全体に対してSYSTEM アカウント権限 (フルコントロール権限)を与えるには、対象配下全 てにフルコントロール権限を持つユーザーにてコマ ンドプロンプトを開き、下記のコマンドを実行します。

icacls D: /grant SYSTEM:(OI)(CI)(F) /T

このコマンドを実行することによって、Dドライブ配 下のフォルダーおよびファイルにSYSTEM アカウン ト権限が付与されます。

※Windows XPにはicacls.exeコマンドがありません。XPにて権 限を追加する場合は下記コマンドを実行してください。

cacls D: /G SYSTEM:F /C /E /T

5 コマンド実行後にフォルダープロパティの「セキュリ ティ」の情報を表示すると、SYSTEMアカウントが追加され、また、フルコントロール権限が割り当てられていることが確認できます。

これで取り込みの準備ができました。

# 取り込み時のエラーについて

SYSTEM アカウントの権限がないまま取り込むと、この画像のようにエラーが発生し、詳細に各フォルダーへの「アクセス権がありません」というエラーが記録されます。SYSTEMアカウントのフルコントロール権限を付与してから再度取り込みを行ってください。

また、取り込み元のセキュリティ権限以外に、属性が「読み取り専用」となっている場合にも同様のエラーが記録されます。この 場合は、取り込めなかったファイルをエクスプローラから、直接、マスタドライブに移動することで対応してください。

<ul> <li>WVAULT (V:)</li> <li>         ・          ・          ・</li></ul>	share	取り込む	取り外す	強制取り外し	接続う
□ 🥸 share	🛕 「VVAULT」とデータを同	同期中にエラーが発生	主しました。 « エラ・	- 詳細ダウンロー	۲»
■ �� 高速ストレージ	📕 share_同期 - メモ帳				
<ul> <li>、</li> <li>・</li> <li>・</li></ul>	771742 編集12 書式 2012年3月27日 13:57 2012年3月27日 13:57	型 表示型 へル 7:36 D:¥部署A( 7:37 D:¥部署B(	(19) こアクセス権が こアクセス権が	ありません。 ありません。	<u>.</u>
	_				



VAULT <sup>®</sup> Administration		
↓ ↓ マスタモード (₩:)	□ レプリカモード	
\$ <del>1</del> \$2		
🗆 🥪 VVAULT (W:)	VVAULT (W:)	
■ 🏫 最速ストレージ		
■ 🎲 高速ストレージ		

ストレージ追加 追加するストレージの情報を入力して決定ボタンをクリックしてください ※管理対象バスに仮想ドライブで公開している共有フォルダは指定しないでください 2
種類* : 最速ストレージ▼
ストレージ名* : share
管理対象バス*: D:
- 10xc
<u> </u>
ネットワークストレージへの接続
□ ユーザ名とパスワードを使用する
ユーザ名 : PC名(またはドメイン名)¥ユーザ名
バスワード:
決定 キャンセル

選択した状態で、「ストレージ追加」アイコンをクリッ クします。

VVAULTの管理画面より、「マスタドライブ」タブを

2 「ストレージ追加」の画面にて、「ストレージ名」に "share"を「管理対象パス」に"D:"を入力して「決 定」をクリックします。種類については適当なものを 選択してください。不明な場合は「最速ストレージ」で 問題ありません。

※管理対象パス階層下にアプリケーションやシステムのフォルダー が存在しないことを確認ください。含まれている場合、アプリケーシ ョンやシステムが動作しなくなる場合がありますのでご注意ください。

既存のデータを取り込む場合、下記の手順に従い、データを取り込みます。

# マスタドライブにデータを取り込む前に

マスタドライブにデータを取り込むには、取り込みデータにSYSTEMアカウントのフルコントロール権限を付与する必要があります。詳細については、「既存の共有ドライブを移行する場合」の移行手順「対象フォルダーのアクセス権を設定する (P.50)」を参照してください。

#### バックアップ対象について

VVAULTのバックアップ機能は、マスタドライブにて管理されるすべてのデータをバックアップ対象とします。そのため、バックアップが不要な共有フォルダーについては、マスタドライブに取り込む必要はありません。

📙 部署Aのフロパティ	X
全般   共有 セキュリティ   以前のバージョン   カスタマイズ	
オブジェクト名: D:	
グループ名またはユーザー名( <u>G</u> ):	
<b>ARENTEM</b>	
アクセス許可を変更するには [編集] をクリック: 🧚 🛛 編集(E)	
SYSTEM のアクセス許可(P) 許可 拒否	
ע−טאעב אר 🗸	
変更 ✓ オコン Finol Late / /	
□ □ 読の 4202 天行	
読み取り ✓	-1
書き込み 🗸	-
特殊なアクセス許可または詳細設定を表示するには、 詳細設定(V) [詳細設定] をクリックします。	
アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示します。	
OK キャンセル 適用	( <u>A</u> )

3 コマンド実行後にフォルダープロパティの「セキュリ ティ」の情報を表示すると、SYSTEMアカウントが追加され、また、フルコントロール権限が割り当てられていることが確認できます。

これで取り込みの準備ができました。

※管理対象パスに除外したいデータが含まれる場合は「取り外す」 をクリックしてストレージを解除し、目的のデータのみ含まれるよう に調整し、構成ストレージを追加してください。

Web ページからのメッセージ X
Shareを取り込んでもよろしいですか? (仮想ドライブ内、shareのフォルダに取り込まれます)
でK キャンセル





[shareを取り込んでもよろしいですか?]というメッ セージが表示されますので[OK]をクリックします。

5

既存データの取り込みが実施されます。

#### 2つ以上の共有フォルダーを取り込むには

VVAULT Basic で追加できる構成ストレージは2つまでです。2つ以上の共有フォルダーを同時に取り込む場合は、有償ライセン スをお買い求めください。なお、十分容量の大きなストレージを構成ストレージとして追加した状態で、共有フォルダーに対してス トレージの追加(取り込み)、取り外しの手順を繰り返すことで、複数の共有フォルダーをマスタドライブに取り込むことができま す。なお、複数の共有フォルダーが含まれる上位のフォルダーが存在する場合は、そのフォルダーを管理対象パスとして指定する ことによって複数の共有フォルダーを同時に取り込むことが可能です。ただし、管理対象パス以下にアプリケーションやシステム で利用するフォルダーが含まれないようにする必要があります。













[マスタドライブ]タブメニューのマスタドライブ: [Unmount]をクリックし、マスタドライブをマウン トします。

※マスタドライブのマウントは、構成ストレージが同期中でも操作可 能です。



1

確認のメッセージが表示されますので、「OK」をクリ ックします。



依存関係のあるサービスを再起動する旨のメッセー ジが表示されますので、「OK」をクリックします。



3

マスタドライブが起動すると「Mount」の状態となり ます。



エクスプローラより、マスタドライブを開きます。マ スタドライブ直下に「部署A」「部署B」フォルダーが存 在していることが確認できます。





📙 shareのプロパティ	×
全般 共有   2 年10 大有   12 キュリティ   カスタマイズ	
ネットワークのファイルとフォルダーの共有	
share 共有されていません	
ネットワーク パス( <u>N)</u> : 共有されていません	
共有(S)	
┌詳細な共有	
カスタムのアクセス許可を設定したり、複数の共有を作成したり、その他の詳 細な共有のオブションを設定したりできます。	
◎ 詳細な共有(D)	
共有フォルダー(こアクセスする(こは、ユーザー アカウントとパスワードが必要で す。	
この設定を変更するには ネットワークと共有センター を使用してください。	

詳細な共有	×
マ このフォルターを共有する(S)	
共有名(日):	
share	
追加( <u>A)</u> 肖耶余( <u>R</u> )	
同時に共有できるユーザー数(し):	1677721 🕂
אַראָב (0)	
5	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	

エクスプローラからマスタドライブ上の[share]フォ ルダーを選択した状態で、右クリックメニューを表示 し、「プロパティ」を選択します。



フォルダープロパティ画面より「共有」タブを選択します。



「詳細な共有」をクリックします。

※Windows Server 2003 R2 では「詳細な共有」ボタンがなく、 タブ内に詳細が表示されています。



「このフォルダーを共有する」にチェックを入れます。



📕 share のアクセス許可	×
共有アクセス許可 6	
_ グループ名またはユーザー名(G):	
& Everyone	—
追加( <u>D</u> ) 削除(R	
Everyone のアクセス許可(P) 許可 拒否	
א-יםאנב ארך 🛛 🗖	
変更	
読み取り 🗹 🗖	
アクセス制御とアクセス許可の言いて、長示します。	
OK キャンセル 適用	1( <u>A</u> )

詳細な共有	×
✓ このフォルターを共有する(S)	
- 設定	_
共有名( <u>H</u> ):	
share	
追加( <u>A</u> ) 削除( <u>R</u> )	
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721	
י(0):	
OK キャンセル 適用	





記録していた情報から、「ドライブD」の共有と同様の 設定を「share」フォルダーに復元します。

※共有設定の詳細については「既存の共有フォルダーを移行する場合」の手順「対象のフォルダーを共有する(P.44)」を参照してください。



全ての設定を復元したら、「OK」をクリックします。



「詳細な共有」画面に戻ったら「OK」をクリックします。



エクスプローラより「share」フォルダー直下の「部署 A」フォルダーを選択した状態で右クリックメニュー を表示し、「プロパティ」を選択します。

📙 部署Aのブロパティ 🛛 🚺 🚺			×
全般   共有 セキュリティ   カスタマイズ		_	44 -
オブジェクト名: V:¥share¥部署A			┉
グループ名またはユーザー名(G):			
¥SYSTEM 終部署A (WIN-UAVSHB8637L¥部署A	¥)		
アクセス許可を変更するには [編集] をクリッ	ク: _	編集( <u>E</u> )…	
SYSTEM のアクセス許可(P)	許可	拒否	
フルコントロール	$\checkmark$		4
変更にはものである。	1		
フォルダーの内容の一覧表示	×.		
読み取り	~		
書き込み	×		-
特殊なアクセス許可または詳細設定を表示 [詳細設定]をクリックします。	ತನದಿಗೆ –	詳細設定(⊻	
アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示し	<u>.हर्च.</u>		
ОК	キャンセル		( <u>A</u> )



部署Aのプロ と設  共有	パティ 13 セキュリティ カスタマイ	(71)	
こがく 一八日 オブジェクト名	: V:¥share¥部署A		14
グループ名また 「シープ名また」	たはユーザー名(G): (WIN-UAVSHB8687L¥音	β署A)	
」 フカセン話を示す	た亦面はス(-(† ))戸生]た	հատե	行生(の)
」 アクセス許可 部署A のアク	を変更するには [編集] を セス許可( <u>P</u> )	クリック:	編集(E) 拒否
」 アクセス許可 部署Aのアク フルコント 変更	を変更するには [編集] を セス許可( <u>P</u> ) ロール	グリック: [ 許可 ✓ ✓	編集(E) 拒否
」 アクセス許可 部署Aのアク フルコント 変更 読み取りと フォルダー(	を変更するには [編集] を セス許可( <u>P)</u> ロール :実行 D内容の一覧表示	クリック: 許可 イ イ	編集( <u>E</u> ) 拒否
<ul> <li>アクセス許可</li> <li>部署Aのアク</li> <li>フルコント 変更</li> <li>読み取りと</li> <li>フォルダー(</li> <li>読み取り)</li> <li>まち込み</li> </ul>	を変更するには [編集] を セス許可( <u>P)</u> ロール :実行 D内容の一覧表示	クリック: 許可 イ イ イ	編集( <u>E</u> ) 拒否
<ul> <li>アクセス許可</li> <li>部署Aのアク</li> <li>フルコント 変更</li> <li>読み取りと</li> <li>フォルダー()</li> <li>書き込み</li> <li>特殊なアクセ</li> <li>精練なアクセレ</li> </ul>	を変更するには [編集] を セス許可(P) ロール :実行 D内容の一覧表示 ス許可また(は詳細語)定を を勿いのします。	クリック: 許可 ・ ・ ・ ・ ・ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	編集(E) 拒否 ▲ ■ ■

- 10 フォルダープロパティ画面より「セキュリティ」タブを 選択します。
- マスタドライブに取り込まれたデータが元のセキュ リティ情報を引き継いでいることを確認します。 ただし、マスタドライブへの取り込みのために追加したSYSTEM アカウントのセキュリティ情報も追加されています。

マスタドライブ上の共有設定されたフォルダー以外 のデータからはSYSTEM アカウント権限を削除して も構いませんので、必要に応じて続きの手順にて削 除します。

※マスタドライブの共有に設定したフォルダーにSYSTEMのフルコ ントロール権限が設定されていない場合、共有経由のアクセスで接 続エラーとなります。

12 マスタドライブ上の「share」フォルダー配下から SYSTEMアカウント権限を削除するには、コマンドプ ロンプトにて下記コマンドを実行します。

icacls V:¥share /remove SYSTEM /T

※Windows XPにはicacls.exeコマンドがありません。XPにて権 限を削除する場合は下記コマンドを実行してください。

cacls V:¥share /R SYSTEM /E /T

13 マ イ

マスタドライブ上の「部署A」フォルダーのプロパティ画面より「セキュリティ」タブを選択します。



SYSTEMアカウントの権限が削除されたことを確認 します。

📕 shareのプロパティ		×
全般   共有 セキュリティ   以前のバージョ	シーカスタマイ:	ズ)
オブジェクト名: V:¥share		15
· <del>グル・プ名またはユーザ・名(G)</del> ·		
SCREATOR OWNER		
Administrator (\0/ALILT=NAS¥Admi	inistrator)	
	··· · · ·	<b>_</b>
アクセス許可を変更するには「編集」をクリック	):	
SYSTEM のマクセス話音(P)		
	141	
ノルコントロール	×,	-
及史 注山町内と宝行	×,	
読の構成して美国	×,	
	~	
またの4X9 まそれね	×,	- I
特殊なアクセス許可または詳細設定を表示。 「詳細設定」をクリックします。	Jaca _	詳細設定(⊻)
アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示し	<u>‡す.</u>	
OK	キャンセル	適用( <u>A</u> )





1	ļ
	Ζ

マスタドライブ上で共有フォルダーとして設定した [share]フォルダーのプロパティ画面より「セキュリ ティ」タブを選択します。

SYSTEMのフルコントロール権限が存在しているこ とを確認します。



16 SYSTEMのフルコントロール権限がない場合は 下記コマンドによって、「share」フォルダーにのみ SYSTEMのフルコントロール権限を設定します。

icacls V:¥share /grant SYSTEM:(F)

※Windows XPにはicacls.exeコマンドがありません。XPにて権 限を追加する場合は下記コマンドを実行してください。

cacls V:¥share /G SYSTEM:F /E

クライアントPC から、マスタドライブを設定したサ 17 ーバにアクセスし、これまでの同様に利用可能なこと を確認します。



VVAULT 導入ステップガイド[レプリケーション・クライアント編 ver.5.1]

レプリケーションは、レプリケーション機能が稼動している別のVVAULTへデータをバックアップする機能です。予め、レプリカドライブとして 稼動しているVVAULTが別途必要となりますのでご注意ください。



VAULT Administration				インスタンス 2
□ マスタモード	レプリカモード (W:)	バックアップ/レブリケーション	タイムマシーン	警告·隨害情報 💷
A A			755	07ップ <mark>ON</mark> レプリケーシ
■ ➡ バックアップ ■ 😪 最速ストレージ ■ ❤ BK STORAGE A	レブリケーション プロキシサー	(職定 接続テスト サイ	<b>1</b> -ビスポリシー表示 レラリケーシ	ョン不整合修復 ペアリング
■ �゚ BK STORAGE B ■ �゚ BK STORAGE C ■ �゚ 藤道ストレージ	レブリケーション設定 ペアリング先URL* : https:// 101.	1.12		
■ ● 中速ストレージ ■ ● ● 低速ストレージ	バスワード* : ●●●●●● ボート番号* : 443	••		■ パスワードを表示
<ul> <li>ヘレプリケーション</li> <li>・ ライブリカバリ</li> </ul>	スケジュール : @ 常時実行 タイムマシーン供能 : ○ 無効 @ マカロ: 小白崎屋期 : ○ 発効 @	○時間帯指定 00 ▼ 時 00 ▼ 有効 8 日 (※最長保存 をわた	分~ 00 ▼ 時 00 ▼ 分 期間:無利限〉	
	共有設定自動同期:○無効 ● レブリケーション除外:▽作成日時の	- 第222 第335 更新 図更新日時の更新 図アク	セス日時の更新	
	ディスク使用量			





1 「バックアップ/レプリケーション」タブから「レプリケーション」画面を開き、接続先のサーバ情報を入力します。

※「接続テスト」ボタンをクリックし、接続を確認します。



3 接続成功のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。 エラーが表示された場合は接続情報等をご確認ください。

Ľ	インスタンス 2 レプリ	カモード (₩:) 🔻	<i>I</i> , 🔅
警告・障害	情報 99+		
バックアップ 〇N	レプリケーション 0	)FF ライブリカバリ	ON [
		4	
-ション不整合修復	ペアリング解除	適用	元頃す





「適用」ボタンをクリックし、設定を保存します。







62

# Bizシンプルディスク バックアップタイプをご契約のお客様

NTT コミュニケーションズが提供する「Biz シンプルディスクバックアップタイプ」をご契約のお客様は、ご契約時にNTT コミュニケーションズから送付されるメールに記載されているIP アドレス、パスワードを入力して下さい。

# レプリカドライブへの接続について

VVAULTのバックアップ機能は、マスタドライブにて管理されるすべてのデータをバックアップ対象とします。そのため、バックアップが不要な共有フォルダーについては、マスタドライブに取り込む必要はありません。



# Windows XPでレプリケーションをご利用のお客様

Windows XPにてレプリケーションの設定をして、接続を行うと、下の画像のようにエラーとなります。 このエラーを解消するには、手動でルート証明書を登録する必要があります。詳細は「Windows XPでのVVAULT ルート証明書の 登録手順 (P.104)」を参照して下さい。

12	27.0.0.1:10001 says: のページ 🛛 🗶
	接続に失敗しました。The underlying connection was closed: Could not establish trust relationship for the SSL/TLS secure channel.[DS0201]
L	OK

# ▼ タイムマシーン

# step 1 タイムマシーン機能を有効にする

バックアップの設定にて、「タイムマシーン」機能を有効にすることにより、過去のバックアップの状態を保存することができます。この機能を 有効にすることで、マスタドライブからフォルダーやファイルを誤って削除してしまった場合や過去のバージョンのファイルを、バックアップか ら復元することができるようになります。

※バックアップされる前に更新されたファイルや削除されたファイルは復元できません。

下記の手順に従い、過去のバックアップの状態を保存します。なお、下記手順は既にバックアップが設定されていることが前提です。

VAULT <sup>®</sup> Administration			
□ マスタモード	レブリカモード(W:)	バックアップ/レブリケーション	タイムマシーン
I III IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII		•	
🗆 🌙 バックアップ	バックアップ		
■ 🏫 最速ストレージ			
■ 🌮 BK STORAGE A			
■ 🌮 BK STORAGE B ■ 🌮 BK STORAGE C	バックアップ設定	1	
■ 🎲 高速ストレージ	スケジュール :	テ ◎時間帯指定 00 ▼時 00	▼分~00▼時0▼分
■ �� 中速ストレージ	タイムマシーン機能 : 🔘 無効	◎ 有効 8 日 (※最長	呆存期間:無制限〉
■ 🤗 低速ストレージ	アカウント自動同期 : (*) 無効	● 有効	
■ ▲ レザリケーション	共有設定自動同期 : 🔘 無効	● 有効	
- マー ライブリカバリ	バックアップ除外 : ☑ 作成日	侍の更新 ☑更新日時の更新 ☑	アクセス日時の更新



バックアップ設定画面、又はレプリケーション設定画 面にて「タイムマシーン機能」を有効にし、「タイムマ シーン保存期間」を入力します。



「適用」ボタンをクリックし、設定情報を保存します。

※保存期間を長く設定するほど、ディスクの使用容量も増加します。 ディスク容量が不十分の場合は、保存期間を短く設定してください。



管理画面の「タイムマシーン」タブより、現在のレプリケーション状況をフォルダー単位で確認することができます。

# ▼ VAULT Administration マスタモード (ハ) レプリカモード バックアップ / レプリカモード レプリカモード バックアップ / レプリケーション ② 2012/5/29 10:00 日時指定 表示日時: 2013/5/29 □ 23: 30 常に最新のバックアップデ 2 照

決定

キャンセル

V	/AUL	Administration				インスタンス 2	レプリカモード (家)	• Ø-	\$ P
		マスタモード	■ レプリカモード (W)	パックアップ/レプリケーション	タイムマシーン	警告 障害情報 🔯			
	レプリ	ケーション・	2012/5/29 10:00				<b>建元状况</b>	政定	C
	w.v								
	_						_		
									復元
0	Β	名前					更新日時	÷	サイズ
	11	🎉 ホャブチャ画教					2012/01/	14 10:18:11	- *
	8	🅌 麥考波料					2012/02/	14 20:00:15	-
	8	📓 委求機能仕積書.doc					2012/02/	21 105812	600KB
٥		☑ DR梯能任根書doc					2012/02/	28 22:02:31	1 MB
	E	🚵 バックアップ相能倒	要.doc				2012/08/	18 08:19:08	1.5MB
	E	■ メッセージ定義書 >1					2012/04/	02 144743	2MB
	8	③ ステータス定義書メ	5				2012/04/	05 13:33:23	2.3MB
	8	🕙 使用ライブラリー覧:	xis				2012/04/	15 15:20:22	1.2MB
	8	回り出力比較書×k					2012/04/	18 15:10:22	1.3MB
0		◎ テストサーバー覧以					2012/05/	09 17:48:53	2.5MB
		① 開業」開墾管理表示					2012/06/	11 22:42:01	1 MB
	11	htt <b>Fit</b> al (1995)					2012/05/	12 11:12:10	3MB
	10	03-02_BackupServer	r_Setting.psd				2012/06/	18 185647	3.3MB
	13	03-03_BackupServer	r_Certificationpad				2012/05/	20 12 15 43	300KB
	10	03-04_BackupServe	r_Certification_Installpad				2012/05/	20 19:09:01	5MB
	13	🚹 BK20120906.z ip					2012/05/	21 16 42 51	3.8MB
	В	🚹 BK20120321.zip					2012/06/	28 09:36:10	4.6MB
									×

「タイムマシーン」タブを開き、データソースを選択し ます。

※「バックアップ」が構成されていない場合は、デフォルトで「レプリ ケーション」が選択されています。

2 「表示日時」ボタンをクリックし、日時指定ウィンドウに て任意の時点を指定して「決定」ボタンをクリックしま す。

3 参照したいフォルダーを選択し、状況を確認します。



VVAULT 導入ステップガイド[レプリケーション・クライアント編 ver.5.1]

ストレージリカバリについて説明します。マスタドライブを構成するストレージに物理的な障害が発生した場合、構成するストレージから取り 外すと同時に、そのストレージ内に保存されていたデータをバックアップデータから復元します。

# step 1 ストレージリカバリを実行する

「マスタモード」タブをクリックし、ツリーメニューより障害が発生しているストレージをクリックし、ストレージ設定画面を開きます。





VAULT <sup>®</sup> Administration		
🔲 マスタモード (V:)	レプリカモード	バックアップ/レブリケーション
<u></u>		
	最速ストレージ	
SATA-000	4	
■   SATA-001 ■   SATA-002	🔲 🧇 SATA-001	
<ul> <li>Girin 602</li> <li>Girin 602</li> <li>Girin 602</li> </ul>	🔲 🧼 SATA-002	
■ 🎻 中速ストレージ		

「マスタモード」タブから障害が発生しているストレージの「ストレージ設定画面」を開き、「強制取り外し」ボタンをクリックします。

2 ダイアログが表示されるので「OK」をクリックします。



ストレージのアイコンが処理中のものに変わり、スト レージリカバリが実行されます。

4 復元が完了すると、対象のストレージがツリーメニュ ーから削除され、設定されたメールアドレスへ結果 メールが送信されます。

▼ 全てのデータを復元する場合

VVAULTを新規にインストールした状態から、レプリケーションされている全てのデータを復元する手順について説明します。この手順はシ ステムがクラッシュしてしまった場合など、部分的な復元で対応できない障害からの復旧を想定しています。



新規にインストールされたVVAULTの管理ツールより、レプリケーションの設定を開きます。







「適用」ボタンをクリックして保存します。







1

「ストレージ追加」ボタンをクリックし、ストレージを 追加します。

※システムリカバリに十分な空き容量が確保されればこのボタンは表示 されません。

ストレージ追加	I
追加するストレーラ	びの情報を入力して決定ボタンをクリックしてください
※管理対象パスに	仮想ドライブで公開している共有フォルダは指定
種類 : ストレージ名* : 管理対象パス* : コメント :	最速ストレージ▼ Share D¥Share
ネットワークスト	レージへの接続
□ ユーザ名とバ	スワードを使用する
ユーザ名 :	PC名(またはドメイン名)ギユーザ名
パスワード :	3 パスワードを表示
	決定キャンセル

 2 「ストレージ追加」の画面にて「ストレージ名」と「管理 対象パス」を入力します。
 種類については適当なものを選択してください。尚、
 不明な場合は「最速ストレージ」で問題ありません。

※復元先として任意の場所を指定できますが、今回は便宜上「ストレージ 名」を"share"「管理対象パス」を"D:"とします。





整理 ▼ 📋 聞く ▼ 書き込(	じ 新しいつ	フォルダー		E	= • 🔟	0
🍲 お気に入り	*	名前	更新日時	種類	サイズ	1
		w v AGET DR.exe.coming	2012/03/23 12:31	AME CONTIGUIDU	U ND	
	-	VVAULTDR.exe	2012/03/23 19:55	アプリケーション	99 KB	
🎍 ダウンロード	=	VVAULTBackup.InstallState	2012/03/23 12:30	INSTALLSTATE	5 KB	
🔙 最近表示した場所		VVAULTBackup.exe.config	2012/03/23 12:30	XML Configurati	6 KB	
		VVAULTBackup.exe	2012/03/23 19:56	アプリケーション	162 KB	
デスクトップ		VVAULT.InstallState	2012/03/23 12:29	INSTALLSTATE	5 KB	
		K VVAULT.ico	2012/03/21 16:14	アイコン	25 KB	
C 10 00		VVAULT.exe.config	2012/03/23 12:29	XML Configurati	14 KB	
N+1X2F		EUV/AUIT ave	2012/03/22 10:56	マプリケーション	37 KB	- 1
■ ピクチャ		UserInfoBackup.txt	2012/03/28 11:02	TXT ファイル	1 KB	Ш
🚼 ビデオ		release.txt	2012/03/23 11:05	コストファイル	13 KB	- 1
🎝 ミュージック		Quartz.dll	2012/02/02 19:37	アプリケーショ	428 KB	
A voshimura		Npgsql.dll	2012/03/21 16:14	アプリケーショ	366 KB	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		Mono.Security.dll	2012/03/21 16:14	アプリケーショ	276 KB	
		Mail.conf	2012/03/28 11:02	テキスト ドキュ	1 KB	
• ネットワーク		log4net.dll	2012/02/02 19:37	アプリケーショ	264 KB	
1月 コントロール パネル		LICENSE.dat	2012/03/23 12:34	DAT ファイル	5 KB	
🕓 コンピューターの簡単操作		install.log	2012/03/23 12:31	LOG ファイル	12 KB	
🎭 システムとセキュリティ		InfiniLicenseChecker.dll	2012/03/23 19:55	アプリケーショ	62 KB	
すべてのコントロール パネル		S Front.dll	2012/03/23 19:56	アプリケーショ	36 KB	

📶 UserInfoBackup.txt - メモ帳 📃 🗖	×
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(V) ヘルプ(H)	
ACCOUNTS] "admin" "Guest" "Hanako.Orega" "Jiro.Orega" "Taro.Orega" "TM_OSCE_LOGITECNAS" "WAULTUSer"	
[GROUPS] "Administrators" "Backup Operators"] "Certificate Service DCOM Access" "Cryptographic Operators" "Distributed COM Users" "Event Los Readers" "Guests" "Guests" "Network Configuration Operators" "Performance Log Users" "Performance Monitor Users" "Performance Monitor Users" "Performance Monitor Users" "Performance Monitor Users" "Prower Users" "Promer Desktop Users" "Replicator" "部署A" "部署B"	
[GROUP-ACCOUNT-MAP] "Administrators" , admin Guests" ", "Guest"	
Users "Guest", "Taro.Orega", "Hanako.Orega", "Jiro.Orega", "WAULTUser" "部署A" "加雷公"	
"Hanako.Orega", "Taro.Orega"	┚



VVAULTインストール先に復元された 「UserInfoBackup.txt」をメモ帳などで開きます。



※パックアップ時のローカルコンピュータのユーザー、グループの権限 情報は、システムリカバリ後、このユーザー、グループに引き継がれます。 ユーザー、グループを作成しないまま復元を実行した場合は、権限情報 が不正な状態となり、操作できない等の問題が発生する場合がありま す。

また、ドメイン環境でドメインコントローラで管理されているユーザー、グ ループ情報がバックアップ時と復元時とで異なる場合、権限情報を引き 継ぐことができませんのでご注意ください。



VAULT <sup>®</sup> Administration				インスタンス1 マスタモ・
■ マスタモード(V <sup>2</sup> )	ロー レラリカモード	バックアップ/レプリケーション	タイムマシーン	陸害-警告情報 5
I I I I I I I I I I I I I I I I I I I				728 F547 Mount 547959 ON
<ul> <li>WYAULT (V:)</li> <li>・ (A) 最速ストレージ</li> </ul>	VVAULT (V:)		1	道明 元に戻す
🖬 🧼 Share	😑 仮想ドライブはアンマウントされて	います		
<ul> <li>● ◆ 高速ストレージ</li> <li>● ◆ 中速ストレージ</li> </ul>	() ストレージの準備が払いました。う	/ステムリカいを開始してください。 📑	ノステムリカル 砂開始	
■ 🍄 低速ストレージ	仮想ドライブ設定			
	ディスクタイプ : © 固定ディ: ドライブレター : <u>V: ▼</u>	スク C 固定ディスク(ごみ稿券引)	Oリムーバブルディスク	
	ポリュームラベル : VVAULT バッファサイズの目安•: 10 G	В		
			0~ m ¥ 85 m ¥ 0	

VAULT Administration				インスタンス 2 マ
🔲 マスタモード (W:)	レプリカモード	バックアップ/レブリケーション	タイムマシーン	警告・障害情報 😒
(\$+ (\$+ (\$*			- 72	9ドライブ Unmount ティアリング
<ul> <li>WAULT (V:)</li> <li>・ 金融 最適ストレージ</li> </ul>	VVAULT (V:)			道明 元11戻す
🖬 🍲 Share	😑 仮想ドライブはアンマウントされてい	はす		
<ul> <li>         ・</li></ul>	仮想ドライブ設定			
■ 🍲 低速ストレージ	ディスクタイプ : • 固定ディス ドライブレター : • •	ク C 固定ディスク(ごみ箱切り)	Cリムーバラルディスク	
	ポリュームラベル : WAULT バッファサイズの目安・: 10 GB		시 - 이국 16 이국 시	_

2 システムリカバリが完了すると、ヘッダが通常色(黒
 色)に変わり、設定されたメールアドレスへ結果メー

ルが送信されます。

「システムリカバリ開始」ボタンをクリックします。

1

# ▼ ファイルを個別に復元する

VVAULTのバックアップおよびタイムマシーン機能を有効に構成することにより、任意時点のバックアップ状態から個別に復元対象を選択してマスタドライブに復元することができるようになります。

下記の手順に従い、バックアップからファイルを個別に復元します。







※「バックアップ」が構成されていない場合は、デフォルトで「レプリケーション」が選択されています。



VAULT <sup>®</sup> Administration						
□ マスタモード	□ <mark>1</mark> プリカモード (₩:)					
<ul> <li>レブリケーション</li> </ul>	⊘ 2012/5/29 10:00					



日時表示部分をクリックします。



[日時指定]ウィンドウにて、復元対象となる日付を指 定します。

「決定」ボタンをクリックして、「日時指定」ウィンドウ を閉じます。



VAU	<b>T</b> <sup>®</sup> Administration		
	マスタモード	レブリカモード (W:)	バックアップ/レプリケーション
ולט 🎔	リケーション 🔻 🔘 201	2/5/29 10:00	
🎦 V:¥ピ:	<b>ブヂャ</b>		
8	名前 🔺		
	길 その他の画像		
	🔛 Chrysanthemum.jpg		
	🔛 Desert.jpg		
	🔛 Hydrangeas.jpg		
	📉 Jellyfish.jpg		

	[	インス:	タンス 2	レブリカ	E−⊧(₩:) •		\$	
タイムマシーン	警告。障	害情報	99+					
				復元状況		設定		C
							2	
							復元	:
					更新日時	•	サイス	¢



※復元対象のファイルが保存されているフォルダーが表示されていない 場合は「復元対象となる日時を指定する (P.71)」に戻り、時間を変更 します。



「復元」ボタンをクリックします。







Web ページからのメッセージ (	x
道元処理を実行しました。 進行状況については「復元状況」を参照してください。	
ОК	

「復元オプション」ウィンドウにて、必要に応じてオプ ションを選択し「決定」をクリックします。

※ここではオプションを変更せず、デフォルトの状態のままとします。



3

確認ダイアログが表示されるので「OK」をクリックし ます。



5 フォルダー作成の確認のダイアログが表示された場 合は[OK]をクリックします。



処理実行の確認ダイアログが表示されるので「OK」 をクリックします。


	インスタンプ	2 レブリカモード	(W:) 👻 🖉 🗸	♥ ₽
タイムマシーン	警告·障害情報 99	1		
	[	復元状況	設定	C
				復元
		更新	所目時 ▼	サイズ
		201	2/01/14 10:18:11	- ^
		201	2/02/14 20:00:15	-



	AULT (V:) 🕨 Rest	ore > 20130109144006	3
整理 ▼ ライブラ	リに追加 ▼ 共	有 🔻 スライド ショー	書き込む
Chrysanthemu m.jpg	Desert.jpg	Hydrangeas.jpg	



「復元状況」をクリックして、「復元状況」ウィンドウを 表示します。



※状態が「復元成功」以外の場合は、「復元成功」になるまでお待ちください。



マスタドライブより復元先のフォルダーを参照し、復 元データを確認します。

73



VVAULT導入ステップガイド[レプリケーション・クライアント編 ver.5.1]

本製品の構成ストレージの管理対象パス直下に自動的に作成される管理フォルダーの設定は、デフォルトで「隠しファイル」属性の付与と、 NTFSにてフォーマットされたローカルハードディスクの場合には「セキュリティ」を設定し、管理フォルダーへの不用意なアクセスを制限して います。

ここではVVAULTのアンインストール後や、何らかの理由で管理フォルダー内のファイルにアクセスする必要のある場合の手順について説明します。

#### 1. Windows Server 2008 / 2008 R2、Windows Vista / 7の場合

管理フォルダーは「隠しファイル」属性が設定されているため、管理対象パスをエクスプローラーにて参照した場合、デフォルトの設定では表示されません。下記の手順に従い、管理フォルダーを表示させます。







2 「コントロールパネル」の「カテゴリー」より「デスクトップのカスタマイズ」または「デザイン」を選択します。

※設定によって、カテゴリーが表示されていない場合があります。その場合は「フォルダー オプション」を選択してください。

3 「フォルダー オプション」の「すべてのファイルとフォ ルダーを表示」を選択します。

7 管理フォルダーの構成を解除する

フォルダー オプション
全般 表示 検索
フォルダーの表示
このフォルターに使用している表示方法(詳細表示物/イコンなど) をこの種類のフォルダーすべてに適用することができます。
フォルダー(ご適用(L) フォルダーをリセット(R)
<ul> <li>→ ファイルおよびフォルダー</li> <li>□ タイトル バーにファイルのパス名を表示する (クラシック テーマのみ)</li> <li>□ チェックボックスを使用して項目を選択する</li> <li>④ ドライブ文字を表示する</li> <li>● アライルとフォルダーの表示</li> <li>● アライルとフォルダーの表示</li> <li>● アライルとフォルダーの表示</li> </ul>
<ul> <li></li></ul>
<b>6</b> 既定値に戻す <mark>5</mark>
OK キャンセル 適用( <u>A</u> )



次にセキュリティによりアクセスが制限されている場合、下記の手順に従い、アクセス権限を追加します。







7 管理フォルダーをダブルクリックします。





管理フォルダー内の任意のデータを確認します。

### 2. Windows Server 2003 R2 の場合

下記の手順に従い、管理フォルダーを表示させます。





管理権限のあるユーザーで、「コントロールパネル」 「フォルダ オプション」を選択します。







次にセキュリティによりアクセスが制限されている場合、下記の手順に従い、アクセス権限を追加します。

🚞 E:¥main2					_	
ファイル(E) 編集	集(E) 表示(⊻)	お気に入	り( <u>A</u> ) ツール(T)	ヘルプ(円)		<i>.</i>
🔇 戻る 🔹 🕥	- 🏂 🔎 検索 🛛	🕑 7#J	🖉 🕼 🎓 🗙	<b>19</b> 🔠		
アドレス( <u>D</u> ) 🔁 E	¥main2	- 5			<b>•</b> (>	移動
名前 🔺			サイズ 種類		更新日時	属
► VV 000 TL 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<ul> <li>くの</li> <li>フスプローラ(2)</li> <li>スプローラ(2)</li> <li>素(E)</li> <li>有とセキュリティ(出)</li> <li>る(M)</li> <li>り取り(D)</li> <li>ニー(C)</li> <li>ニートカットの作成(S)</li> <li>除(D)</li> <li>前の変更(M)</li> <li>ロパティ(B)</li> </ul>	•	77-11	フォルダ	2012/11/15 1228	н
						F



管理フォルダーを選択し、右クリックメニューより「プ ロパティ(R)」を選択します。

1000070757			? ×
全般 共有 セキュリ	ティーカスタマイズ	1	
グループ名またはユーザー	-名( <u>G</u> ):		
SYSTEM			
		6	
1			
	-	追加( <u>D</u> )	
SYSTEM のアクセス許す	1(b) _	許可	
フル コントロール			
変更			
フォルダの内容の一覧	表示		
読み取り			
書き込み			
特殊なアクセス許可また	は詳細設定を表示	示するには、「I単	詳細設定♡
希腊対定」をクリックしている	:Cl 10	-	
			1

ユーザー または グループ の選択	? 🗙
オブジェクトの種類を選択してください(2): コーザー、グルーフ または ビルトイン セキュリティ プリンシパタル 場所をお完し、アください(E)	オブジェクトの種類(
OREGA-26PHRPU10¥Administrators	<u>名前の確認(2)</u>
	OK ++>>tz11

VV000のプロパティ		? ×
全般 共有 セキュリティ カスタマイス	( )	
グループ名またはユーザー名( <u>G</u> ):		
🚮 Administrators (OREGA-26PHR	PU10¥Administrato	ors)
SYSTEM		
10		
	追加( <u>D</u> )	<u>削除(R)</u>
Administrators のアクセス許可(P)	許可	拒否
ע-מאכב ער		
変更		
フォルダの内容の一覧表示		
読み取り		
書き込み		<b>_</b>
特殊なアクセス許可または詳細設定を表 細設定]をクリックしてください。 12	示するには、国手 _	詳細設定(V) 11
ОК	1 500 1011	( 適用(A)



管理フォルダーの「プロパティ」画面の「セキュリティ」 タブより、「追加」をクリックします。



7 「ユーザー または グループ の選択」画面のオブジェ クト名入力に管理者のアカウント名またはグループ 名を入力します。

※左図では「Administrators」グループを設定しています。



「名前の確認」をクリックします。



「OK」をクリックします。

プロパティ画面より、追加したアカウントを選択した 10 状態で、任意のアクセス許可を設定します。



「適用」をクリックします。

「OK」をクリックし、画面を閉じます。 12

🚞 E:¥main	2¥VV000				
ファイル(E)	編集(E)	表示⊙	お気に入り( <u>A</u> ) ツ	ール(工) ヘルプ(土)	
🔇 戻る 🔹	🔊 - 😥	🔎 検索	🜔 フォルダ 🛛 😭	» 🗙 🍤 🔛	
アドレス( <u>D</u> )	🛅 E:¥mair	2¥V/000			
名前		13	サイズ	種類	更新
California Share01	)			ファイル フォルダ	2012/



13 管理フォルダーにアクセスし、任意のデータを確認します。

# 3. Windows XPの場合

下記の手順に従い、管理フォルダーを表示させます。









管理権限のあるユーザーで、「コントロールパネル」 を開きます。

2

「コントロールパネル」より「デスクトップの表示とテ ーマ」を選択します。

※設定によって、カテゴリーが表示されていない場合があります。その場合は「フォルダー オプション」を選択してください。

3

「デスクトップの表示とテーマ」より「フォルダ オプション」を選択します。



「フォルダ オプション」画面の「表示」タブの「詳細設 定」にて「ファイルとフォルダの表示」の「すべてのフ ァイルとフォルダを表示する」を選択します。



「適用」をクリックします。

「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。

次にセキュリティによりアクセスが制限されている場合、下記の手順に従い、アクセス権限を追加します。





🗁 VV000
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)
○ 戻る · ● ・ ● ● 検索 ● フォルダ ● 12
アドレス(D) 🛅 C:¥Storage¥main2¥VV000
77イルと7ォルダのタスク 🔹 🦳 Shared
● 新しいフォルダを作成する
このフォルダを共有する



「スタート」メニューの「すべてのプログラム」「アクセ サリ」より「コマンドプロンプト」を選択します。



#### 想定する構成について

VVAULTによって管理されたストレージのデータを通常の状態に復元する方法について説明します。この手順は下画像のようにマスタドラ イブが構成されていることを想定しています。尚、マスタドライブが有効でない場合の手順についても説明しますが、この場合はセキュリティ 情報やファイル属性を完全に復元することはできません。



#### ▼ マスタドライブが有効な場合の手順

# STEP 1 共有されているフォルダーの共有を解除する

対象となる「部署A」「部署B」両方のフォルダーに対し、以下の手順を実施し、共有設定を解除します。



マスタドライブ上で共有フォルダー設定されている フォルダーのプロパティを表示し、「詳細な共有」をク リックします。

細な共有	
✓ このフォルダーを共有する(S)	
┌設定 共有名(H):	
部署A	▼
<b>追加(A)</b> 削缩余(R)	
同時に共有できるユーザー数(L):	1677721 🛨
אטאב (0):	
2	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	
OK キャンセル	適用

部署Aのアクセス許可 共有アクセス許可		3
」 グループ名またはユーザー名(G):		
《部署A (WIN-UAVSHB8637L¥書	ß署A)	
	追加( <u>D</u> )	削除( <u>R</u> )
部署A のアクセス許可(P)	許可	拒否
די בארב אור		
変更   読み取り		
6760742.7		
レ アクセス制御とアクセス許可の詳細を表	読します。	

詳細な共有 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	×
✓ このフォルダーを共有する(S)	
- 設定 共有名(H):	
部署A 🔹	
<b>追加(A)</b> 前耶余(R)	
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721 📑	
(0): גער	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	
OK キャンセル 適用 道用	



2 アクセス許可をクリックします。



3 共有設定情報を控えます。



4 共有設定情報を控え終わったら、「このフォルダーを 共有する」のチェックを外して共有を解除します。

# **STEP 2** マスタドライブのセキュリティ情報を保存する

マスタドライブに対してフルコントロール権限を持つユーザーにてコマンドプロンプトを開き、下記のコマンドを入力して「部署A」(階層化含む)のセキュリティ情報を保存します。

國管理者: コマンド プロンプト	I X
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]	
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.	
D:¥Users¥Administrator>V:       1         V:¥)cacls .%部署A /t /c /save C:¥work¥busho_a_acl.bin       1         V:¥)cacls .%部署A       2         U理ファイル: .%部署A       2         U理ファイル: .%部署A       2         U理ファイル: .%部署A       2         U理ファイル: .%部署A       3         U=       .%         U=       .%	
	<b>T</b>



2

マスタドライブ上で下記コマンドを実行します。

icacls .¥部署A /t /c /save C:¥work¥busho\_

※上の例では"C:¥work¥busho\_a\_acl.bin"ファイルにマスタドラ イブの部署Aフォルダの階層下を含むセキュリティ情報が保存され ます。

3

マスタドライブ上の部署Bフォルダについても別の ファイルを指定してセキュリティ情報を保存します。

※Windows XPではセキュリティ情報を保存するコマンドが用意 されていないため、この手順は利用できません。STEP3を実施後、 手動にてセキュリティ情報を復元してください。

# step 3 マスタドライブ上のフォルダーを別ドライブへ移動する



エクスプローラより、マスタドライブ上の「部署A」フ ォルダーを空き容量のあるドライブに移動します。

ここでは移動先をC:直下とします。

「部署B」フォルダーについても同様に移動します。

# STEP 4 移動先のフォルダーにセキュリティ情報を復元する

STEP2にて保存したファイルを用い、STEP3にて移動したコンテンツのセキュリティ情報を復元します。

回答理者: コマンド プロンプト □□× Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reser V:¥>C: C:¥Users¥Administrator>cd C:¥ C:¥Vicacls . /restore C:¥work¥busho_a_acl.bin 処理ファイル: ・浴部署A 処理ファイル: ・浴部署A	コマンドプロンプトよりSTEP3の移動先ドライブに 移動します。 C:
処理ファイル: -铝は著件ブヲルダ2 処理ファイル: -铝ι著件ブヲルダ3 処理ファイル: -焙ι署Aギフォルダ1¥ファイル1.txt 処理ファイル: -焙ι署Aギフォルダ1¥ファイル2.txt 処理ファイル: -焙ι署Aギフォルダ1¥ファイル3.txt 処理ファイル: -焙ι署A¥フォルダ2¥デンブレート1.rtf	2 移動先フォルダに移動します。 cd C:¥
	3 下記コマンドを実行します。 icacls ./restore C:¥Work¥busho_a_acl.bin
	部署Bのセキュリティ情報についても同様に復元しま す。

# step 5 移動先のフォルダーに共有設定を復元する

対象となる「部署A」「部署B」両方のフォルダーに対し、以下の手順を実施し、共有情報を復元します。





詳細な共有	x
▼ このフォルダーを共有する(S)	
	1
共有名(H):	
部署A	
<b>注自力D(A)</b> 肖印除(R)	
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721	
ו(0):	
2	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	
OK キャンセル 道用	

1	部署A のアクセス許可			2
ſ	共有アクセス許可			Й
	グループ名またはユーザー名( <u>G</u> ):			
	& 部署A (WIN-UAVSHB8637L¥部	畧A)		
		追加( <u>D</u> )	削除( <u>R</u> )	
	部署A のアクセス許可(P)			-
				٦
	変更			
	読み取り			
l	アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示	ನರಿಕಿತ್ತು		
	ОК	キャンセル	適用( <u>A</u> )	)

手細な共有	×
▼ このフォルダーを共有する(S)	
共有名(日):	
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721	
אַראָב (0):	
<u>アクセス許可(P)</u> <u> </u> クロン(C)	
OK キャンセル 適用	





「アクセス許可」ボタンをクリックします。



記録していた情報から、「部署A」の共有設定を復元します。

※共有設定の詳細については「4マスタドライブを構成する」の「既存の共有フォルダを移行する場合」の手順「対象のフォルダーを共有する(P.44)」を参照してください。



全ての設定を復元したら、「OK」をクリックします。

# STEP 管理フォルダーのデータを統合する

퉲 フォルダ1	
🤄 🕞 - 📜 • □−カル ディスク	(C:) • Storage1 • VV000 • 部署A • フォルダ1
整理 ▼ ライブラリに追加 ▼	共有 🔻 新しいフォルダー
<ul> <li>ニーカル ディスク (C:)</li> <li>PerfLogs</li> <li>Program Files</li> <li>Program Files (x86)</li> <li>Storage1</li> <li>VV000</li> <li>部署A</li> <li>フォルダ1</li> <li>フォルダ2</li> <li>フォルダ3</li> <li>部署B</li> <li>Windows</li> <li>work</li> <li>ユーザー</li> <li>ボリューム (D:)</li> <li>Storage2</li> <li>VV000</li> <li>部署A</li> </ul>	▲ 名前 ▲ 1 2 ファイル1 □ ファイル2 □ ファイル3



本製品の構成ストレージとして追加されていたフォ ルダーには、同一のフォルダー階層が作成され、ファ イルが分散されて管理されます。 今回の例では、マスタドライブ上で「V:¥部署A」と 表現されているフォルダーは、「C:¥Storage1¥ VV000¥部署A」と「D:¥Storage2¥VV000¥部署 A」を合わせたものになります。

> 「C:¥Storage1¥VV000¥部署A」と「D:¥Storage2 ¥VV000¥部署A」を統合するため、エクスプローラ よりそれぞれC:直下に移動し統合します。

2

「部署B」のフォルダーも同様に、D:直下に移動し統合します。



マスタドライブが無効な場合はセキュリティ情報を復元できないため、手動での再構築が必要です。





フォルダのプロパティのセキュリティタブより、セキュ リティを設定します。

※セキュリティ設定の詳細については「4 マスタドライブを構成す る」の「マスタドライブを共有する場合」の「フォルダーのアクセス権 を設定する (P.33)」を参照してください。



共有設定についても、マスタドライブが無効な場合は復元できないため、手動での再構築が必要です。

■ 部署Aのプロパティ
全般 共有 セキュリティ 以前のバージョン カスタマイズ NFS 共有
ネットワークのファイルとフォルダーの共有 部署A 共有
ネットワーク パス( <u>N</u> ): ¥¥Win-uavshb86371¥部署a
共有( <u>S</u> )
詳細な共有 カスタムのアクセス許可を設定したり、複数の共有を作成したり、その他の詳 細な共有のオプションを設定したりできます。
[ 一
「パスワード保護――――
共有フォルダーにアクセスするには、ユーザー アカウントとパスワードが必要で す。
この設定を変更するには <u>ネットワークと共有センター</u> を使用してください。
開じる キャンセル 適用(白) ヘルプ



フォルダのプロパティの共有タブより、共有を設定します。

※共有設定の詳細については「4 マスタドライブを構成する」の「既 存の共有フォルダーを移行する場合」の手順「対象のフォルダーを 共有する (P.44) 」を参照してください。



VVAULT 導入ステップガイド[レプリケーション・クライアント編 ver.5.1]

#### セキュリティ対策ソフトを設定する

代表的なセキュリティ対策ソフトをVVAULTと組み合わせて使用する場合の設定方法について説明します。 VVAULTと組み合わせて利用する場合、基本的な設定はVVAULTのマスタドライブおよびバックアップ、レプリカドライブに追加したストレ ージの管理対象パスすべてをセキュリティ対策ソフトの例外に設定し、直接スキャンさせないようにする必要があります。



 管理画面より、マスタドライブおよびローカルバック アップに設定したすべてのストレージの管理対象パ スを控えます。

# Symantec Endpoint Protection 12 の設定方法









「設定の変更」より、VVAULTのストレージの管理対 象パスを「例外」に追加します。例外の「オプションの 設定」をクリックします。

例	1外					×
	ユーザー定義の例外(山)					
	例外項目	6	列外の種類		処理	71
	C:¥Storage¥bk 1¥*	t	2キュリティリスクスキャン・すべ	てのスキャン	無視	
	C:¥Storage¥main1¥*	t	2キュリティリスクスキャン・すべ	てのスキャン	無視	
	C#Storage¥main2¥*	t	2キュリティリスクスキャン・すべ	てのスキャン	無視	
	1			2		- 1
	這加(A) 編集(E) 削除(D)	1		2		
	C. CONTRACT CONTRACTOR CONTRACTOR					
				閉じる	1 1,175	,



フォルダーの参照 🗙
セキュリティリスクのフォルダ例外の追加
🕀 🌗 PerfLogs
🕀 📙 Program Files
🕀 📙 Program Files (x86)
🖃 📙 Storage 🔤 🔤
例外の種類 6 べてのスキャン 7
● サフフォルタを含む OK キャンセル



「追加」をクリックします。



4 「セキュリティリスク例外」「フォルダ」を選択します。

5 VVAULTのマスタドライブおよびバックアップのス トレージの「管理対象パス」に設定した内容を追加し ます。



「サブフォルダを含む」をチェックします。



「OK」をクリックします。

#### ウイルスバスター コーポレートエディションサーバ バージョン 10.6 の設定方法







ウイルスバスター Corp. Webコンソールを起動し、 ログインします。



「ネットワーク上のコンピューター」の「クライアント 管理」から、VVAULTのインストールされているマシ ンを選択し、「設定」をクリックし、「検索設定>>」から 「手動検索の設定」をクリックします。

表示される設定ウィンドウの「検索除外」にて、VVAULTのストレージの管理対象パスを除外リストに追加します。

象 処理					
<b>教院外</b>	2				
すべての検索タイプに検索院外設定を通用	56 /				
検索院外リスト(ディレクトリ)					
ディレクトリのパスを入力してください (例) ロ	ftermpilExcludeDir),				
▶ トレンドマイクロ製品がインストールされ	ているディレクトリの触ら	*			
保存時の処理:					
○ クライアントコンピュータの除外リストの	創行				
○ クライアントコンピュータの除外リストの.	上書き	Α			
	071,203,210				
○ クライアントコンピュータの除外リストが 	のパスの樹陰			5	
C:NStorageNmain2			1 <u>0</u> 10		
C:#Storage#main1			首即名		



VVAULTのマスタドライブおよびローカルバックア 5 ップのストレージの「管理対象パス」に設定した内容 を全て追加します。

「保存」をクリックします。 6

他のすべての検索設定でも、除外リストにパスが追加されたことを確認します。

ウイルスバスターからマスタドライブが認識されるように、ディスクタイプを変更します。



7 管理画面の「マスタモード設定」より、「固定ディスク (ごみ箱あり)」を選択し、「適用」をクリックします。 コンピューターを再起動します。

#### ウイルスバスター コーポレートエディションサーバ バージョン10.6をインストールする

#### 場合のご注意

VVAULTがインストールされている状態でウイルスバスターコーポレートエディションのインストール画面にてHTTPサーバとし てIISを選択してインストールする場合、インストールに失敗します。この問題を回避するために、ウイルスバスターのインストー ル前にすべてのVVAULTのサービスを停止してからインストールしてください。なお、ウイルスバスターのインストール画面にて HTTPサーバとしてApache2.0を選択する場合は、そのままインストールすることができます。

7ァイル(E) 操作(A)	表示(V) ヘルプ(日)					
Þ =>   📰   🔛	Q 📑 🛛 🖬 🖿 🖬 🕪					
🗼 サービス (ローカル)	😋 サービス (ローカル)					
	WVAULT Backup Database	名前 ^	説明	状態	スタートアップの種類	L C -
	Service	🙆 Virtual Disk	ディス	開始	手動	L
		🚳 Volume Shadow Copy	バック		手動	L
	サービスの停止	VVAULT Backup Database Service		開始	自動	1
	サービスの再記動	VVAULT Backup Service		開始	自動	L
		🖏 VVAULT Database Service		開始	自動	à
	1	VVAULT DR Database Service		開始	自動	- A
	1	🖏 VVAULT DR Service		開始	自動	L
	1	VVAULT Virtual Drive Service		開始	自動	L
	1	🖏 VVAULT Web Console Service		開始	自動	L
	1	🍓 Web Management Service	Web		手動	L
	1	🔄 WebClient	Windo		手動	L
	1	🎑 Windows Audio	Windo		手動	L
	1	🍓 Windows Audio Endpoint Builder	Windo		手動	L
	1	🎑 Windows CardSpace	デジタ		手動	L
	1	🆏 Windows Color System	WcsPI		手動	L
	1	🖄 Windows Defender	スパイ	<b>REA</b> S	自動(译延問法)	1
	L	•				<u> </u>

VVAULTから始まるすべてのサービスを停止します

#### McAfee VirusScan Enterprise 8.7iの設定方法

<ul> <li>Ø Internet Explorer (64 ビット)</li> <li>Ø Internet Explorer</li> <li>Windows Update</li> <li>MeAfee</li> </ul>	
VirusScan コンソール ゆうオンアクセス スキャン ゆうオンデマンド スキャン 1000000000000000000000000000000000000	Administrator ドキュメント
<ul> <li>VVAULT</li> <li>アクセサリ</li> <li>スタートアップ</li> <li>メンテナンス</li> </ul>	コンピューター ネットワーク
🍒 管理ツール	コントロール パネル
	デバイスとプリンター
	管理ツール・ト
	ヘルプとサポート
	ファイル名を指定して実行…
▲ 前に戻る	Windows セキュリティ
「プログラムとファイルの検索 2	<b>●</b>
Aza-h 🍇 🛛 🚞	

1 VirusScan のコンソールを起動します。

コンソールより、VVAULTのストレージの管理対象パスを「例外」に追加します。

₩ Viru <u>sScan コ</u> ンソール			
タスク(A 2 B) 表示(C)	ツール(D) ヘルプ(E)		
	🏂 🖪 <u> </u> 😫 🕅		
タスク	状態	最終結果	最終実行
👺 アクセス保護	有効		
📃 配信時の電子メール スキ	っ有効		
同不審なプログラム ポリシー	- 不審なプログラムのカ		
👿 オンアクセス スキャン	有効		
Quarantine Manager のポリ	シー 検疫フォルダには、0 ア		
🚺 フル スキャン	スケジュールが設定さ		
🗿 自動アップデート	日単位: 17:00	アップデートに成功しま	2012年5月16日 14:1…
VirusScan コンソール			1.





🐝 除外対象の設定	×
ない スキャンから除外するファイル、フォルダ、およびドライブを選	択してください。
「項   サブフォルダを除外   読み取り/書き込み	のK 7 キャンセル
	追加( <u>A)</u>
	編集(8)
	削₿余( <u>C</u> )
	消去(D)
	ヘルプ( <u>E</u> )

😼 除外項目の追加 🛛 🛛 🛛
_除外対象8
○ 名前/場所で指定 (ワイルドカードとして * または ? が使用可能) (A):
C:¥Storage¥main1¥ 参照(E)
▶ サブフォルダも除外(凹)
○ 拡張子で指定(ワイルドカードとして * または ? が使用可能) (B):
○ ファイルの保存期間で指定(C):
アクセス タイプ(G): 保存日数(1):
更新日時 👤 1 🗧
○ Windows ファイル保護機能で保護されているファイル(W)
_ 除外条件
▼ 読み取り時(」)
✓ 書き込み時(K)
OK キャンセル ヘルプ(L)

1w			
🐚 VirusScan コンソール			
<u>タスク(A)</u> 10) 表示(C) ツール(	D) ヘルプ(E)		
et > 🖬 🖻 🛋 🏂 🗳	<u> 🕺 😰 </u>		
<u></u>	状態	最終結果	最終実行
😵 アクセス保護	有効		
📄 配信時の電子メール スキャン	有効		
■ 词 不審なプログラム <u>ポリシー</u>	不審なプログラムのカ		
🛛 🔯 オンアクセス スキャ 11	有効		
Re-Quarantine Manager かいシー	検疫フォルダには、0 ア		
😨 フル スキャン	スケジュールが設定さ		
	日単位: 17:00	アップデートに成功しま	2012年5月16日 14:1…
			<b>}</b>
VirusScan コンソール			li.



「除外対象の設定」にて「追加」をクリックします。



「除外対象」としてVVAULTのストレージの管理対象 パスを選択し、「サブフォルダも除外」にチェックしま す。



[OK]をクリックします。 他のすべての管理対象パスも追加します。



10 プロパティをクリックします。



11 「フルスキャン」を選択します。



🍖 Virus <u>Sean コ</u> ンソール			_ <b>_ _</b> ×
<u>タスク(A)</u> 14 ) 表示(C) ツール(D)	) ヘルプ( <u>E</u> )		
e Pex 30	<u>&amp;</u> 😰 😻		
タスク	状態	最終結果	最終実行
1 2 アクセス保護	有効		
🖃 配信時の電子メール スキャン	有効		
◎ 不審なプログラ	不審なプログラムのカ		
◎ オンアクセス スミニー 15	有効		
🙆 Quarantine Manager のポリシー	検疫フォルダには、0 ア		
😨 フル スキャン	スケジュールが設定さ…		
	日単位: 17:00	アップデートに成功しま	2012年5月16日 14:1
-			
<u>     </u>			
VirusScan コンソール			1.

豚オンデマンド スキャン プロパティ - フル スキャン	×
タスク(A) ヘルプ(B) 16	
スキャンの場所 スキャン アイテム 除外 パフォーマンス アクション レポート	ОК
◎ スキャンから除外するアイテムを指定します。	キャンセル
	適用( <u>D</u> )
スキャンシュ家介 除外するディスク、ファイル、フォルダ(0) [除外対象( <u>()</u> ]	開始(E)
	デフォルトに戻す( <u>G</u> )
	デフォルトとして保存(出)
	スケジュール①
	ヘルプ(」)



「除外」タブを表示します。

「除外対象」をクリックします。 13 「除外対象」にストレージに設定された管理対象パスを 「オンアクセススキャン」と同様に設定します。



17

プロパティをクリックします。



15 「フルスキャン」を選択します。



「除外対象」をクリックします。「除外対象」にストレー ジに設定された管理対象パスを「オンアクセススキャ ン」と同様に設定します。



VVAULT 導入ステップガイド[レプリケーション・クライアント編 ver.5.1]

#### VVAULTをアンインストールする

- 🔄 - ביאר אוני	▼ すべてのコントロール パネル項目 ▼ プログラムと機能	<ul> <li>▼ 50 70000000000000000000000000000000000</li></ul>	製造の検索	
コントロール パネル ホーム	プログラムのアンインストールまたは変更			
インストールされた更新プログラムを 表示	プログラムをアンインストールするには、一覧からプログ クリックします。	ラムを選択して 「アンインストー	ル]、[変更]、または [修	夏]を
Windows の機能の有効化または 無効化	移理 マ アンインストール 変更	1		<b>-</b> (2
ネットワークからプログラムをインスト	2000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000	維行元	-  •[.4]	tri x
-70	VVAULT	OREGA Inc.	2012/03/	
	Mozilla Firefox 6.0.1 (x86 ia)	Mozilla	2012/03/	33.1 N
	Microsoft SQL Server 2005	Microsoft Corporation	2012/03/	
	BMicrosoft Report Viewer Redistributable 2005	Microsoft Corporation	2012/03/	
	🥶 まめFileら Second Edition	AMA Soft	2011/07/	5.75 N
	🛅 sakura editor(サクラエディタ)	サクラエディタ開発チーム	2011/07/	
	📋 Microsoft SQL Server VSS Writer	Microsoft Corporation	2011/03/	1.10 N
	Microsoft SQL Server Native Client	Microsoft Corporation	2011/03/	5.81 N
	Microsoft Visual C++ 2005 Redistributable (x64)	Microsoft Corporation	2011/03/	620 K
	Microsoft SQL Server Setup Support Files (Engl.	<ul> <li>Microsoft Corporation</li> </ul>	2011/03/	20.7 N
	🕲 VMware Tools	VMware, Inc.	2010/05/	17.7 N
	•			
	C M M C 20 La - 90 M 12, 23-3 - 0.0 0	+++#	> if the letters of the council thin di-	









ー覧より「VVAULT」を右クリックし、「アンインストー ル」をクリックします。



確認ダイアログが表示されるので「はい」をクリック すると、アンインストールが始まります。



途中、左図の確認ダイアログが表示されるので「はい」 をクリックします。



[完了]ボタンをクリックし、コンピューターを再起動 するとアンインストールが完了します。



VVAULT 導入ステップガイド[レプリケーション・クライアント編 ver.5.1]

# 共有フォルダーにSYSTEM権限を追加する

VVAULTのマスタドライブ上の共有フォルダーにSYSTEMのフルコントロール権限が付与されていない場合、共有経由でアクセスすると エラーとなる問題が発生します。

この手順は上記問題に対応するため、マスタドライブ上の共有フォルダーにSYSTEMの権限が設定されていない場合にSYSTEMのフルコントロール権限を追加する方法について説明します。



4



コマンドプロンプトが表示されたら下記のコマンドを 入力します。 icacls V:¥Shared01 /grant SYSTEM:(F)

※この例では「V:¥Shared01」が共有フォルダーとして設定されていることを想定しています。ご利用の環境に合わせて変更してください。

変更後、「Enter」キーを押してコマンドを実行します。

■管理者: コマンド プロンプト	_ 🗆 ×
Microsoft Windows [Version 6.0.6001]	-
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.	
C:¥Users¥Administrator.OREGA3>icacls V:¥Shared01 /grant SYSTEM:(F)	
処理ファイル: V:¥SharedO1	
1 個のファイルが正常に処理されました。0 個のファイルを処理できませんでした	
C:¥Users¥Administrator.OREGA3>_	

👝 VVAULT (V:)	
<del>()</del>	・コンピュータ + VVAULT (V:) +
🖣 整理 👻 📗	表示 🔻 💽 開灯 👧 共有
名前	▼  更新日時 → -  ▼  種類
👦 Shared01	<b>開く(O)</b> エクスプローラ(X)
	共有(H) 以前のバージョンの復元(V)
	送る(N) 🕨
	切り取り(T) コピー(C)
	ショートカットの作成(S) 削除(D) 6 名前の変更(M) 7
	プロパティ(R)

🝶 Shared01ወታロパティ 🛛 🗙
全般   共有 セキュリティ   以前のバージョン   カスタマイズ
オブジェクト名: V:¥Shared01 7
<u> ガループ名またはユーザー名(G):</u> またSYSTEM
Administrator
アクセス許可を変更するには【編集】をクリック: 編集(E)
SYSTEM のアクセス許可(P) 許可 拒否
特殊なアクセス許可
特殊なアクセス許可または詳細設定を表示するには、[ 詳細設定]をクリックしてください。 アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示します。

5 実行結果が表示されます。
----------------





セキュリティに「SYSTEM」が追加されたことを確認 します。

# Windows XPでのVVAULT ルート証明書の登録手順

Windows XPにてレプリケーションの設定をして、接続を行うとエラーとなります。 エラーを解消するには、手動でルート証明書を登録する必要があります。 この手順は上記問題に対応するため、VVAULTのルート証明書のインストール方法について説明します。





1 <u>ע-עעב 📸</u>		
Philon         操作(金)         表示(型)         お知に入り(型)           前期(FDX(型)         CtrlN           開K(四)         CtrlN           計畫者が群年(型)         CtrlN           之者者が打けて(深(型)         CtrlN           スキラ子(公の訪加生命経(型))         CtrlM           オランシン(の訪加生命経(型))         CtrlM           オランシン(型)         1. CtMMINOV(S4.3devment.msc)           線子(型)         All T (型)	・ウインドウビザーヘルプロ 3 このビューに表示する項目はありません。	
スナップインを追加したり、スナップイン コンソールから	スナップインペ	

証明書を登録するために管理ユーザでMMC
 (Microsoft Management Console)を起動します。

起動はスタートメニューより、"ファイル名を指定して 実行"を選択します。



名前に"mmc"と入力して「OK」をクリックします。



MMCのコンソールから、「ファイル」から「スナップインの追加と削除」を選択します。

スナッブインの追加と削除	? 🗙
スタンドアロン 拡張	
このページを使ってコンソールにスタンドアロン スナップインを追加または削除します。	
スナップインの 追加先 S2:	
ixiah	
4	
<b>追加(2)</b> 削除(R) バージョン情報( <u>B</u> )	
OK **	っしせル



証明書スナップイン	X
このスナップインで管理する証明書:	
○ ユーザー アカウント(M) ○ サービス アカウント(S)	
○コンピュータ アカウント©)	
	6
	< 戻る(B) (次へ(U)> キャンセル

4

MMCのコンソールから、「ファイル」から「スナップインの追加と削除」を選択します。



「証明書」を選択し、「追加」をクリックします。



「コンピュータ アカウント(C)」を選択し、「次へ」をク リックします。



🛍 ສວນ–ມາ		X
ファイル(E) 操作(A) 表示(V) お気に入り	© <mark>8</mark> ₩ ^///⊞	
🏠 コンソール ルート		
	名前	
	図記明書 (ローカル コンピュータ)	
<ul> <li>         ・         ・         ・</li></ul>		
● □ 中間証明機関 ■ □ 信頼された発行元		
● ○ 信頼されていない証明書		
●		
⊞- <u> </u>		

<mark>10 コンソール1</mark> ファイル(E) 操作(A) ← → E 回	) 表示() お気に入() 12   12   12   12   12   12   12   12	)(② ウィンドウW) ヘルブ(型) ] コン/ビューカ)X (言称本れたモート)(子明)(4		
□ コンソール ルート □ 部 証明書 (ロー □ □ 1 目前取って) □ □ □ 1 目前取って) □ □ □ 1 目前取って) □ □ 1 目前取っ □ □ 1 目前取っ □ □ 1 目前取っ □ □ 1 目前取って) □ □ □ 1 目前取って) □ □ □ 1 目前取っ □ □ □ 1 目前取って) □ □ □ □ □ 1 目前取っ □ □ □ □ □	カルコンピュータ) たルート証の所限第 すべてのシスク(2) まってのシスク(2) まっての こから新しいウィンドウ 新しいウスク(シド表示 最新の情報に更新(2) ~覧のエクスポート(2) ヘルブ(2)	Rift先 / 9     Adfunct Eteman CA Root A     Adfunct Eteman CA Root     Adfunct Eteman CA Root     Adfunct Eteman CA Root     Well Starting CA     Well Starting     Well Starting CA     Well Starting CA     Well S	Ritat ABAECOM Root CA AddTutat External CA Root Autoridad Certificadora de lo As Autoridad Certificadora de lo As Autoridad Certificadora de lo Cel Baltimore EZ by DST Belgscom E-Trust Primary CA Gál HKT SecureNet CA Class CaW HKT SecureNet CA Class CaW HKT SecureNet CA SoS C CAN HKT SecureNet CAN HKT SECURENCE CAN HKT SE	
証明書をストアに追加	Lಕ <b>ತ</b> ್ಮ			



7	「ローカル コンピュータ」を選択し、「完了」をクリック
-	します。



MMCにローカルコンピュータの証明書ストアが表 示されます。



「証明書(ローカルコンピュータ)」の「信頼されたルー ト証明機関」の「証明書」を選択した状態で右クリック メニューの「すべてのタスク」から「インポート」を選択 します。



10 証明書のインポートウィザードが開始されますので、 「次へ」をクリックします。



ファイルを開く					? 🗙
ファイルの場所①:	C VVAULT		<b>~</b> (	3 🤌 📂 🛄	
<ul> <li>最近使ったファイル</li> <li>デスクトップ</li> <li>マイ ドキュメント</li> </ul>	about  jre logs constant tops tomcat VVAULTData VVAULTRootCA	cer			
ی ¢۲ ב) لاء −¢					12
Y1 ⊀サドノ−ク	ファイル名( <u>N</u> ): ファイルの種類( <u>T</u> ):	VVAULTRootCA.cer X509 証明書 (*.cer;*.crt)		<ul><li>✓</li></ul>	開(Q) キャンセル

書のインボート ウィザード (
<b>インボートする証明書ファイル</b> インボートするファイルを指定してください。
ファイル名(E):
C#Program Files#VVAULT#VVAULTRootCA.cer 参照(P)
注意: 次の形式を使うと 1 つのファイルに複数の証明書を保管できます: Personal Information Exchange- PKCS #12 (PFX,P12) Cryptographic Message Syntax Standard- PKCS #7 証明書 (P7B) Microsoft シリアル化された証明書ストア (SST)
3
〈戻る(8) 次へ(10) > キャンセル

証明書のインボート ウィザード	
証明書ストア 証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。	
Windows に証明書ストアを自動的に選択させるか、証明書の	易所を指定することができます。
○証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選	R43(II)
●証明書をすべて)欠のストア(こ配置する(P)	
証明書ストア:	
信頼されたルート証明機関	参照( <u>R</u> )
	14
	(B) (次へ(N) > (キャン/セル

11 インポートする証明書の選択画面にて、「参照」をクリックします。

12 ファイル選択ウィンドウにて、VVAULTのインストー ルフォルダ直下にある証明書ファイルを選択し、「開 く」をクリックします。



証明書ファイルが選択されたら、「次へ」をクリックします。







TOP-U-U-N-N-     Stiff: 第11 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (	19 コンソール1 ファイル④ 操作(A) 表示(V) お気に入り ← → 10 回 よ 19 × 13 日 19 コンソール ルート¥証明書 (ローカル 3	② ウィンドウ₩ ヘルブ(H) ② Ⅲ いビュータ)洋信頼されたルート証明4	X期¥証明書	
ストア 信頼されたルート証明規則 (2は 111 個の証明書があり) #		発行先 / GrenSign Individual Software PubL. GrenSign Trust Network. GrenSign Trust Network. G	発行者 Verölen Individual Software Put Verölen Trust Network Verölen Trust Network VAULT Primæy Certificate Auf Neut EE Ly 667	
	ストア 信頼されたルート証明機関 には 111 個の	証明書がありま		

ウィザードを完了するため「完了」をクリックします。

16 MMC上に「正しくインポートされました」というメッ セージが表示されるので、「OK」をクリックします。

信頼されたルート証明機関に「VVAULT Primary 17 Certificate Authority」が追加されていることを確 認します。

> 以上で、VVAULTのルート証明書がインストールさ れ、レプリケーションサーバへ接続ができるようにな ります。
